令和2年

双葉町議会会議録

第1回定例会

3月10日開会～3月17日閉会

双葉町議会

令和2年第1回双葉町議会定例会会議録目次

招集告示	1
応招・不応招議員	2

第 1 日 (3月10日)

議事日程	3
出席議員	5
欠席議員	5
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	5
職務のため議場に参加した者の職氏名	5
開 会	6
開 議	6
議事日程の報告	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
諸般の報告	6
行政報告	6
報告第1号	8
議案第4号から議案第25号までの一括上程	8
議案第4号から議案第25号までの提案理由の説明	9
町長施政方針	13
請願の委員会付託	19
散 会	19

第 3 日 (3月12日)

議事日程	21
出席議員	22
欠席議員	22
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	22
職務のため議場に参加した者の職氏名	22
開 議	23

議事日程の報告	2 3
一般質問	2 3
3番 羽山君子君	2 3
1番 尾形彰宏君	3 0
発言の訂正	3 6
5番 菅野博紀君	3 6
7番 岩本久人君	5 0
4番 高萩文孝君	5 7
散 会	6 4

第 8 日 (3月17日)

議事日程	6 5
出席議員	6 7
欠席議員	6 7
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	6 7
職務のため議場に出席した者の職氏名	6 7
開 議	6 8
議事日程の報告	6 8
議案第4号の質疑、討論、採決	6 8
議案第5号の質疑、討論、採決	6 9
議案第6号の質疑、討論、採決	6 9
議案第7号の質疑、討論、採決	7 0
議案第8号の質疑、討論、採決	7 0
議案第9号の質疑、討論、採決	7 1
議案第10号の質疑、討論、採決	7 1
議案第11号の質疑、討論、採決	7 2
議案第12号の質疑、討論、採決	7 2
議案第13号の質疑、討論、採決	7 3
議案第14号の質疑、討論、採決	7 4
議案第15号の質疑、討論、採決	7 4
議案第16号の質疑、討論、採決	7 6
議案第17号の質疑、討論、採決	7 7
議案第18号の質疑、討論、採決	7 8

議案第19号の質疑、討論、採決	79
議案第20号の質疑、討論、採決	79
議案第21号の質疑、討論、採決	83
議案第22号の質疑、討論、採決	85
議案第23号の質疑、討論、採決	86
議案第24号の質疑、討論、採決	87
議案第25号の質疑、討論、採決	88
議案第26号の質疑、討論、採決	90
請願第1号の審査報告、質疑、討論、採決	91
発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	92
発議第2号の上程、説明、質疑、討論、採決	93
常任委員会の閉会中の所管事務調査の件	94
議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件	94
議員派遣の件	94
閉 会	94

3 月 定 例 町 議 会

(第 1 号)

元双葉町告示第4号

令和2年第1回双葉町議会定例会を、次のとおり招集する。

令和2年2月19日

双葉町長 伊 澤 史 朗

1. 期 日 令和2年3月10日（火）
午前10時

2. 場 所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

○応招・不応招議員

○応招議員（8名）

1番 尾形彰宏君
3番 羽山君子君
5番 菅野博紀君
7番 岩本久人君

2番 石田翼君
4番 高萩文孝君
6番 清川泰弘君
8番 佐々木清一君

○不応招議員（なし）

令和2年第1回双葉町議会定例会議事日程（第1号）

令和2年3月10日（火曜日）午前10時開会

開 会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸般の報告 監査・検査結果報告
双葉地方広域市町村圏組合議会報告
双葉地方水道企業団議会報告
- 日程第4 行政報告
- 日程第5 報告第 1号 専決処分の報告について
専決第 1号 羽竜迫線外1路線道路災害復旧工事請負契約の一部変更について
- 日程第6 議案第 4号 専決処分の承認について
専決第 2号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第6号）
- 日程第7 議案第 5号 令和2年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定について
- 日程第8 議案第 6号 双葉町課設置条例の一部改正について
- 日程第9 議案第 7号 双葉町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について
- 日程第10 議案第 8号 双葉町職員定数条例の一部改正について
- 日程第11 議案第 9号 双葉町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 日程第12 議案第10号 双葉町コミュニティーセンター条例の一部改正について
- 日程第13 議案第11号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正について
- 日程第14 議案第12号 町道路線の廃止について
- 日程第15 議案第13号 町道路線の認定について
- 日程第16 議案第14号 指定管理者の指定について
- 日程第17 議案第15号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第7号）
- 日程第18 議案第16号 令和元年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第19 議案第17号 令和元年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第4号）
- 日程第20 議案第18号 令和元年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第4号）

- 日程第21 議案第19号 令和元年度双葉町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 日程第22 議案第20号 令和2年度双葉町一般会計予算
- 日程第23 議案第21号 令和2年度双葉町国民健康保険特別会計予算
- 日程第24 議案第22号 令和2年度双葉町公有林整備事業特別会計予算
- 日程第25 議案第23号 令和2年度双葉町公共下水道事業特別会計予算
- 日程第26 議案第24号 令和2年度双葉町介護保険特別会計予算
- 日程第27 議案第25号 令和2年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第28 令和2年度施政方針
- 日程第29 請願の委員会付託
- 散 会

○出席議員（8名）

1番	尾形彰宏君	2番	石田翼君
3番	羽山君子君	4番	高萩文孝君
5番	菅野博紀君	6番	清川泰弘君
7番	岩本久人君	8番	佐々木清一君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	金田勇君
教育長	館下明夫君
秘書広報課長	鈴木健一君
総務課長	平岩邦弘君
復興推進課長	大浦富男君
戸籍税務課長	高橋秀行君
産業課長兼 農業委員 事務局長兼 コミュニティ センター所長	志賀睦君
建設課長	猪狩浩君
住民生活課長	中野弘紀君
健康福祉課長兼 青年婦人会館長	舶来丈夫君
生活支援課長	朝田幸伸君
会計管理者	井戸川陽一君
教育総務課長	橋本仁君
代表監査委員	石川雄彦君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	志賀公夫
書記	加村めぐみ

◎開会の宣告

○議長（佐々木清一君） ただいまの出席議員は8名です。定足数に達しておりますので、ただいまから令和2年第1回双葉町議会定例会を開会します。

（午前10時00分）

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） これから本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

◎会議録署名議員の指名

○議長（佐々木清一君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、議長において、1番、尾形彰宏君、2番、石田翼君を指名します。

◎会期の決定

○議長（佐々木清一君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、3月3日開催の議会運営委員会でご審議を頂き、本日から3月17日までの8日間とすることにご報告を頂きました。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、会期は本日から17日までの8日間に決定しました。

◎諸般の報告

○議長（佐々木清一君） 日程第3、諸般の報告を行います。

監査・検査結果の報告、双葉地方広域市町村圏組合議会の報告、双葉地方水道企業団議会の報告をします。

お手元に配付した報告書、議決書の写しをもって報告に代えさせていただきます。ご了承願います。

これで諸般の報告を終わります。

◎行政報告

○議長（佐々木清一君） 日程第4、行政報告を行います。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） おはようございます。令和2年第1回双葉町議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

12月定例会以降の行政経過についてご報告いたします。

まず、避難指示解除についてであります。昨年12月26日の原子力災害現地対策本部、福島県、双葉町の3者による双葉町の避難指示解除準備区域と帰還困難区域の一部区域の避難指示解除の合意を踏まえ、本年1月17日に国の原子力災害対策本部会議において、当該区域の避難指示解除が決定され、3月4日午前零時をもって避難指示が解除されました。

東日本大震災及び原子力災害から9年を迎え、ようやく当町で初めての避難指示解除となりましたが、今回の避難指示解除はあくまでも復興のスタートラインにすぎないと考えております。3月4日から開始した特定復興再生拠点区域における立入り規制の緩和を契機に、復興のさらなる加速化に向けて取り組んでまいります。

12月21日、双葉住コン株式会社及び大林道路株式会社で共同企業体を構成する双葉中央アスコンが火入れ式を開催し、中野地区復興産業拠点内で第1号となる操業開始となりました。

1月3日、いわき市において、双葉町成人式を挙行いたしました。震災当時小学5年生だった新成人の皆さん29人が出席されました。代表者による「誓いの言葉」、「はたちの夢・希望」の発表が行われ、成人者としての決意やふるさと双葉を思う心、そして復興への思いが述べられ、大変心強く感じました。また、成人式終了後に双葉町賀詞交換会を開催し、多くのご来賓の方々にご出席いただき、双葉町の復興実現を誓い合ったところです。

1月11日、12日の両日、夢ふたば人主催による「双葉町ダルマ市」が昨年に引き続き、復興公営住宅勿来酒井団地イベント広場で開催されました。恒例の奉納神楽やダルマみこし、巨大ダルマ引きのほか、双葉町民俗芸能発表会や双葉町芸術文化団体連絡協議会主催による第30回双葉町芸能発表会が行われました。民俗芸能発表会には3団体、芸能発表会には4団体が出演し、日頃の活動の成果を披露していただき、来場者からは多くの拍手が送られていました。両日とも天候に恵まれ、会場には県内外の避難先から訪れた町民の皆さんや地域の方々が縁起物のだるまを買い求めるなど、大勢の来場者でにぎわいを見せていました。

2月13日、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が双葉町を聖火リレーのルートに追加決定したことから、3月26日の聖火リレー実施に向け、双葉町の復興状況を国内外に発信できるよう、現在準備を進めています。

2月19日、中野地区復興産業拠点へ立地する株式会社アルムシステムと企業立地協定締結式を行いました。現在も立地を検討している企業と協議を行っており、立地協定の締結に向けて取り組んでお

ります。

2月27日、中間貯蔵施設予定地内で建設が進められておりました双葉町減容化施設における廃棄物処理業務の火入れ式が現地で行われました。この施設は、可燃性の除染廃棄物や災害廃棄物等を処理するとともに、廃棄物を焼却した際に出る焼却残渣を減容化する施設であり、本格的な処理が開始されることにより、町の復興を加速していく上で非常に重要な施設になるものと考えております。一部区域の避難指示が解除された3月4日、双葉町コミュニティーセンターに役場連絡所を開所いたしました。連絡所では、住民票の写しなど諸証明の交付、一時立入り支援、個人線量計等の貸出しなどの業務を行い、一時立入りされる町民の皆さんや来訪者の方々を支援してまいります。

3月7日、常磐自動車道「常磐双葉インターチェンジ」の供用が開始され、安倍総理大臣や赤羽国土交通大臣などが現地を訪れました。インターチェンジの開通により、今年夏に開所予定の産業交流センターや東日本大震災・原子力災害伝承館などが立地する中野地区復興産業拠点、既成市街地の再生や新たな生活の場となることを目指すJR双葉駅を中心とするエリアがインターチェンジから10分圏内になり、高速道路の利用圏域が拡大することにより、人々の交流を活発にし、企業の進出などを通じて町の復興に大きく寄与していくものと期待しております。

最後に、本定例会に提案いたしました案件について申し上げます。まず、専決処分の報告が1件となります。提出議案については、専決処分の承認が1件、条例の制定が1件、条例の一部改正が6件、町道路線の廃止及び認定が2件、指定管理者の指定が1件、令和元年度補正予算（案）が5件、令和2年度一般会計・特別会計当初予算（案）が6件、合わせて22件となりますので、慎重なるご審議を頂き、議決賜りますようお願い申し上げます。

○議長（佐々木清一君） これで行政報告を終わります。

◎報告第1号

○議長（佐々木清一君） 日程第5、報告第1号 専決処分の報告について、専決第1号 羽竜迫線外1路線道路災害復旧工事請負契約の一部変更についてを議題とします。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 報告第1号 専決処分の報告について、専決第1号 羽竜迫線外1路線道路災害復旧工事請負契約の一部変更についてであります。これは令和元年6月13日、第2回双葉町議会定例会において議決を頂いた工事請負契約につきまして、請負金額に変更が生じたため、地方自治法第180条第1項の規定により専決処分をいたしましたので、同条第2項の規定により報告いたします。

○議長（佐々木清一君） 以上で報告第1号を終わります。

◎議案第4号から議案第25号までの一括上程

○議長（佐々木清一君） 日程第6、議案第4号から日程第27、議案第25号までを一括上程したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、議案第4号から議案第25号までを一括上程いたします。

◎議案第4号から議案第25号までの提案理由の説明

○議長（佐々木清一君） 議案第4号から議案第25号までの提案理由の説明を求めます。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 議案第4号 専決処分の承認について、専決第2号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第6号）についてであります。歳入歳出それぞれ80万円を追加し、歳入歳出予算の総額は358億8,421万円となりました。

歳入については、新たに県支出金80万円を追加いたしました。

歳出については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーコースに当町が追加決定されたことを受け、大会を盛り上げ、さらには東日本大震災及び原子力災害からの復旧・復興の現状を広く発信するため、教育費に記念式典に係る経費170万円を追加いたしました。これに伴い予備費を90万円減額いたしました。

議案第5号 令和2年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定についてであります。東日本大震災及び原子力災害の被害を受けている納税義務者の税負担の軽減を図るため制定するものです。

議案第6号 双葉町課設置条例の一部改正についてであります。双葉町内での営農再開や農業施設復旧の推進など、農業部門の体制強化を図るため、現在の行政組織のうち、産業課を農業振興課に改めるものです。

議案第7号 双葉町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正についてであります。これは個人番号利用事務の追加及び令和元年10月1日からの幼児教育等の無償化に伴い所要の規定の整備を行うものです。

議案第8号 双葉町職員定数条例の一部改正についてであります。町の復旧・復興事業などに対応するため、双葉町職員の定数を改正するものです。

議案第9号 双葉町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正についてであります。現在の臨時的任用職員等がフルタイム会計年度任用職員として引き続き任用される場合に、これまでの賃金等支給総額に達しない者に対し、経過措置としてその差額に相当する額を支給できる

ものとするものです。また、パートタイム会計年度任用職員の報酬の支給方法について、別に規則で定めるため改正するものです。

議案第10号 双葉町コミュニティーセンター条例の一部改正についてであります。設置目的を東日本大震災及び原子力災害からの復興を進め、地域住民の交流を図ることに改めるとともに、目的外使用に係る規定を定めるものです。

議案第11号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正についてであります。東日本大震災及び原子力災害の被害を受けている被保険者の負担軽減を図るため、引き続き介護保険料を減免するために改正するものです。

議案第12号 町道路線の廃止についてであります。駅西地区住宅団地等整備事業に係る町道路線を整理するため、道路法第10条第1項の規定に基づき廃止するものです。

議案第13号 町道路線の認定についてであります。農道として整備された路線を町道として管理していくため、道路法第8条第1項の規定に基づき町道路線に認定するものです。

議案第14号 指定管理者の指定についてであります。これは双葉町産業交流センターの指定管理について、地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定することについて、同条第6項の規定により議会の議決を求めるものです。

議案第15号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第7号）についてであります。歳入歳出それぞれ56億6,317万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額は302億2,103万6,000円となります。

歳入の主なものについて申し上げます。町税は、固定資産税の償却資産分の増額等により、1億2,978万4,000円を追加いたしました。地方交付税は、震災復興特別交付税等の減により、1億9,580万9,000円を減額いたしました。国庫支出金及び県支出金は、事業費の確定等により国庫支出金3億4,896万3,000円、県支出金1億102万円をそれぞれ減額いたしました。繰入金は、事業費の減額に伴い福島再生加速化交付金基金、中間貯蔵施設立地町地域振興交付金など、合わせて51億7,284万2,000円を減額いたしました。

次に、歳出についてであります。事業費の確定等により多くの科目で減額補正となっておりますので、主なものについて申し上げます。総務費は、中野地区復興産業拠点や双葉駅西地区復興拠点の整備事業費の大幅な減などにより、67億4,259万8,000円を減額いたしました。衛生費は、中間貯蔵施設に関する地権者支援事業給付金の減などにより3億1,667万4,000円を減額いたしました。諸支出金は、今年度交付された震災復興特別交付税のうち、事業費の確定等により後年度の事業費に充当する財源を基金へ積立てするなどにより、16億6,258万円を追加いたしました。継続費補正につきましては、中野地区復興産業拠点整備事業業務委託料ほか2事業を計上いたしました。繰越明許費は、IRU光ファイバーケーブル移設事業ほか5事業を計上いたしました。債務負担行為補正は、防犯・防災総合システム賃貸借（第3期）を廃止いたしました。

議案第16号 令和元年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）についてであります。

歳入歳出それぞれ2,554万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額は13億9,822万9,000円となります。

歳入は、国庫補助金が災害臨時特例補助金の確定により1億2,821万4,000円の減額、県支出金が保険給付費等交付金の増により1億267万円を追加いたしました。

歳出は、保険給付費の療養諸費が退職被保険者の減少により2,500万円の減額、国民健康保険事業費納付金が医療給付費分、後期高齢者支援金等分、介護納付金分の額確定により54万4,000円を減額いたしました。

議案第17号 令和元年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第4号）についてであります、歳入歳出それぞれ3,622万9,000円を減額し、歳入歳出予算の総額は16億4,859万1,000円となります。

歳入は、一般会計繰入金金が4,594万9,000円の減額、雑入が972万円の追加となります。

歳出は、下水道総務費が100万円の減額、下水道建設費が3,522万9,000円の減額となります。継続費補正につきましては、双葉駅西側第一地区下水道施設整備事業業務委託料を計上いたしました。繰越明許費は、汚水処理施設基本設計・実施設計業務など2事業を計上いたしました。

議案第18号 令和元年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第4号）についてであります、歳入歳出それぞれ349万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額は11億9,629万8,000円となります。

歳入は、保険給付費等の増により国庫支出金に180万1,000円、支払基金交付金に83万1,000円、県支出金に38万4,000円、繰入金に48万3,000円をそれぞれ追加いたしました。

歳出は、保険給付費に介護サービス等諸費の増などにより340万円を追加いたしました。

議案第19号 令和元年度双葉町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）についてであります、歳入歳出それぞれ16万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額は2,698万5,000円となります。

歳入は、繰入金金が後期高齢者医療保険基盤安定に係る一般会計繰入金16万3,000円を追加いたしました。

歳出は、後期高齢者医療保険基盤安定に係る後期高齢者医療広域連合納付金16万3,000円を追加いたしました。

議案第20号 令和2年度双葉町一般会計予算についてであります、歳入歳出予算の総額は286億4,000万円で、前年度比18億6,000万円、6.1%の減といたしました。

歳入について申し上げます。町税は、固定資産税の償却資産分の増額などを見込んだため、前年度比4,451万3,000円増の10億4,095万2,000円となります。地方交付税は、震災復興特別交付税分を含む特別交付税の減額を見込んだため、前年度比16億615万7,000円減の29億9,960万8,000円となります。国庫支出金は、復旧復興事業の進捗等に合わせ福島再生加速化交付金の減額を見込んだことなどにより、前年度比11億7,529万2,000円減の81億98万9,000円となります。県支出金は、常磐自動車道追加インターチェンジ整備事業の減額を見込んだことなどにより、前年度比7億4,864万7,000円減の17億4,204万6,000円となります。繰入金は、福島再生加速化交付金基金や中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金などからの繰入金143億753万7,000円を計上し、各種事業に充当してまいります。

続いて、歳出について申し上げます。議会費は、前年度比150万5,000円増の6,157万2,000円となります。総務費は、双葉駅西地区公営住宅整備事業などを計上した一方、中野地区復興産業拠点整備並びに双葉駅西地区復興拠点整備に係る用地費及び補償費が前年度から大きく減額したことなどから、前年度比4億7,180万5,000円減の144億1,043万6,000円となります。民生費は、高齢者サポート拠点設置事業や生活サポート補助金事業、防犯・防災総合システム整備事業費（第3期分）を計上したことなどから、前年度比2億9,596万3,000円増の27億9,426万1,000円となります。衛生費は、前年度比2億8,913万8,000円減の6億554万2,000円で、中間貯蔵施設に関する地権者支援事業給付金や双葉地方水道企業団負担金等を計上しております。農林水産業費は、営農再開ビジョン策定事業や帰還困難区域伐木除草事業などを計上し、前年度比5億4,772万4,000円増の7億5,811万5,000円となります。商工費は、本年7月開所予定の双葉町産業交流センターに係る維持運営経費などを計上し、前年度比2億4,160万9,000円増の3億999万2,000円となります。土木費は、常磐自動車道追加インターチェンジ整備事業や町道中田観音堂線整備事業などの道路新設改良費を計上したほか、下水道施設維持補修事業や水処理センター整備事業などにより、公共下水道事業特別会計への繰出金が前年度から増額となったことなどから、前年度比2,564万2,000円増の29億3,194万6,000円となります。消防費は、双葉地方広域市町村圏組合負担金などを計上し、前年度比2,262万円減の1億6,417万5,000円となります。教育費は、前年度比4,073万2,000円減の3億2,488万7,000円で、仮設校舎等管理運営費や集まれふたばっ子事業などを計上しております。災害復旧費は、町道等の災害復旧事業費を計上し、前年度比1億2,786万6,000円減の2億8,960万7,000円となります。公債費は、前年度比823万7,000円減の2億623万5,000円となります。諸支出金は、双葉駅西地区公営住宅整備事業等の財源として、福島再生加速化交付金基金積立金を計上したことなどにより、前年度比19億5,515万6,000円減の56億8,008万1,000円となります。予備費は、前年度比5,688万9,000円減の1億314万1,000円となります。また、債務負担行為として財務会計システム更新業務委託ほか3事業を設定いたしました。

議案第21号 令和2年度双葉町国民健康保険特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は13億4,307万7,000円で、前年度比965万2,000円、0.7%の増といたしました。

議案第22号 令和2年度双葉町公有林整備事業特別会計予算についてであります。歳入歳出の総額は296万9,000円で、前年度比49万8,000円、14.4%の減といたしました。

議案第23号 令和2年度双葉町公共下水道事業特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は7億1,960万5,000円で、前年度比1億7,758万9,000円、32.8%の増といたしました。

歳入の主なものについて申し上げます。一般会計からの繰入金は、公共下水道の復旧を進めるため、前年度比3億334万9,000円増の7億1,940万1,000円となります。

次に、歳出の主なものであります。公共下水道事業費の下水道維持費は、前年度比3億5,916万6,000円増の4億1,616万6,000円で、下水道管路施設被災状況調査業務委託、前田川1号雨水幹線樋管部改修工事費などを計上しております。下水道建設費は、前年度比1億7,250万4,000円減の1億

5,000万円で、双葉駅西側第一地区下水道施設整備事業業務委託料、水処理センター建設工事委託料などを計上しております。公債費は、前年度比622万3,000円減の1億4,437万1,000円といたしました。

議案第24号 令和2年度双葉町介護保険特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は10億7,013万4,000円で、前年度比8,116万円、8.2%の増といたしました。

議案第25号 令和2年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は9,103万6,000円で、前年度比874万8,000円、10.6%の増といたしました。

以上、提案いたしました議案について、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 提案理由の説明を終わります。

◎町長施政方針

○議長（佐々木清一君） 日程第28、令和2年度施政方針を行います。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 令和2年第1回双葉町議会定例会の開催に当たり、令和2年度の町政運営に対する私の所信の一端を述べ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

まず、昨年12月に中国湖北省武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症についてであります。中国以外での感染者が急増していることから、世界的流行が懸念されているところです。日本政府は、指定感染症に指定するとともに、感染者数、感染経路が不明の市中感染者数の増加に鑑み、2月25日に「大規模イベントの延期、規模の縮小要請」、「子供の健康安全を第一に小、中、高等学校の休校要請」、「PCR検査に医療保険の適用」、「あらゆる可能性を想定した立法措置」などの基本方針を示しました。

一方、世界保健機関は、2月28日、世界全体の危険性の評価を中国と同等の「非常に高い」に引き上げ、世界的流行の認定に至り、事態の拡大局面が継続しております。一日も早い終息を願っているところですが、福島県内でも、政府からスポーツや文化イベントの自粛を要請されたことを受け、中止や延期が相次いでいます。双葉町としても「双葉町新型コロナウイルス感染症対策基本方針」を作成し、対応に当たっており、小中学校の臨時休校を初め、必要な感染予防対策を講じることができない町主催のイベントは、原則として感染の終息が確認されるまでの間、中止や延期、規模の縮小等の措置をとってまいります。また、私たち自身も手洗い、うがい、アルコール消毒、マスクの着用など、基本的な予防対策を身につけることが感染予防につながるものと考え、機会あるごとに予防対策の徹底を啓発してまいります。

さて、明日で震災から9年が経過いたします。明日11日は、いわき市内において「東日本大震災双葉町追悼式」を規模の縮小、会場でのマスクの配布、アルコール消毒液の設置など、感染症予防対策に万全を期して挙行いたします。

東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、改めて多くの尊い命が失われたことに深い哀悼の意をささげてまいります。

令和2年度は、私が町長に就任してから2期目の最後の年であるとともに、双葉町復興まちづくり計画（第二次）の総まとめの年となります。先週3月4日、双葉町で初となる一部区域の避難指示解除を実現することができました。ここまで来れましたのも議会の皆様、町民の皆様のご理解、ご指導の賜物です。この場を借りて御礼を申し上げます。

しかし、避難指示の解除はゴールではなく、復興に向けたスタートです。ふるさと双葉町に対する町民の皆様のお思いは、震災から9年が経過した今もなお変わらないところであり、町民の皆様が長きにわたる避難生活に区切りをつけ、安心して帰還できる、帰還したいと思える環境整備に全力で取り組み、復興を加速してまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、令和元年度は平成29年9月に認定されました特定復興再生拠点区域復興再生計画に基づき、国により特定復興再生拠点区域内の除染並びに被災家屋の解体が行われる一方、双葉町も復興まちづくり計画（第二次）に基づき、「町民一人一人の復興」と「町の復興」を基本理念として、復興・復旧に関わる各種施策の具現化に取り組んでまいりました。

その結果、先ほど申し上げましたとおり、3月4日には浜野、両竹地区の避難指示解除準備区域とJR双葉駅周辺等の一部区域の避難指示が解除され、特定復興再生拠点区域内の立入り規制が緩和されました。この措置に合わせ、双葉町コミュニティーセンター内に双葉町役場コミュニティーセンター連絡所を開設し、およそ9年ぶりに町内での役場業務を再開させました。

7日には、整備を進めていた常磐自動車道常磐双葉インターチェンジの供用が開始されました。開通に当たっては、安倍総理大臣や赤羽国土交通大臣にもご来訪いただきました。安倍総理には、今般の避難指示解除は、あくまで復興のスタートであり、これから本格的に復興施策を具体的に進めていく必要がある旨、ご理解を頂いたものと考えています。

そして、14日にはJR常磐線が全線運転再開し、双葉駅も東西自由通路を兼ね備えた新しい駅舎に生まれ変わります。東京と仙台を結ぶ特急電車が双葉駅にも1日上下3本ずつ停車するほか、普通列車は1日各11本停車いたします。

さらに、駅東側には地権者の皆様のご協力の結果、新たな駅前広場の整備が実現しました。インターチェンジにせよ、JR常磐線にせよ、整備された交通インフラの効果を最大限に発揮させ、復興の大いなる推進力とする必要があります。そのためには、町や町民の皆様による上手な利活用が重要であると考えております。

また、今年は7月から東京オリンピック・パラリンピックが開催される日本の歴史に残る記念の年になります。3月26日には双葉町でも駅周辺において聖火リレーが行われます。これまで頂いた国内外からの多くのご支援に感謝するとともに、双葉町の現状を発信して、聖火がさらなる双葉町の復興へつながる希望の明かりになることを期待しております。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される7月には、福島県が整備を進めているアーカイブ拠点施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開業予定です。また、隣接して町が整備している産業交流センターについてもおおむね計画どおり建設工事が進んでおり、東京オリンピック・パラリンピックに合わせ伝承館、産業交流センター、復興祈念公園の一部が一体的にオープンできるよう調整を進めております。3つの施設の連携により、震災の記憶を伝承し、復興への思いを伝える発信拠点としての魅力を高め、双葉町に関心を持っていただける関係人口の増大を図ります。

さらに、事業再開や誘致を進めている中野地区復興産業拠点の整備や立地は、現在順調に進んでおります。現時点では、12件17社の企業の進出が決まっており、昨年12月には第1号となる企業の操業が開始されました。さらなる立地を目指すとともに、立地を決定していただいた企業の皆様の円滑な事業開始を責任を持ってサポートしてまいります。

また、中間貯蔵施設整備事業についてであります。環境省は県内に仮置きされている除去土壌等について、帰還困難区域を除き、令和3年度までにおおむね搬入完了を目指す方針を示しております。令和2年度も身近な場所からの仮置き場の解消を目指し、前年度と同程度の量が搬入される予定であります。輸送のために多くの交通量が予想され、交通事故防止のためにも道路整備が不可欠であります。双葉町における輸送ルートとしての農道原田前田線の整備や町道山田郡山線の改良工事、富沢橋の架け替え工事については、今年度中に完了して供用開始されており、輸送に伴う安全対策に大きく寄与するものと考えております。

また、細谷地区に建設を進めておりました仮設焼却施設並びに灰処理施設については、2月27日に火入れ式が行われ、稼働が開始されました。今後、町内の建物解体や除染等の可燃物の処理に大きく寄与するものと考えております。

これまで申し上げたとおり、復興に向け着々と取組を進めてきているところですが、あくまで避難指示の解除はゴールではなく、復興に向けたスタートであり、町内環境はもとより避難の長期化によって町民の皆様の健康、仕事、暮らしなど、様々な面で多くの課題が山積しているのも事実です。町民の皆様の生活再建こそ最重要課題であり、町の復興と町民一人一人の復興は両輪で、引き続き全力で取り組んでまいります。

また、特定復興再生拠点区域の避難指示解除を実現できても、町域の約8割以上は帰還困難区域のままであり、解除の見通しがまだ立っていません。さらには福島県全体の復興のため、中間貯蔵施設を受け入れるという苦渋の判断をしております。町域全域の避難指示解除なくして町の復興再生はなし得ません。全域の解除と復興の実現まで国が責任を持って全力で取り組んでいただくよう、今後も強く国に要請してまいります。

以上を踏まえ、令和2年度に重点的に取り組む施策について申し上げます。まず、避難指示解除を実現したエリアに町の復興の推進力となるよう中野地区復興産業拠点における企業立地の促進を行うとともに、次に挙げる施策を進めます。

第一に、双葉町産業交流センターにつきまして、7月に開業させるべく、最終準備を進めます。貸し事務所における企業立地の推進、飲食店舗や物販店舗のオープンにより、人の流れの創出を図ります。

また、産業交流センター単体の整備では不十分です。隣接して福島県によりアーカイブ拠点施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」及び復興祈念公園の一部の整備が進められています。産業交流センターと、これらの施設を一体的に開業させ、相互の連携を密にすることにより、双葉町に関心を持っていただける方を増やし、復興ツーリズムの形成による交流人口拡大を目指します。

第二に、中野地区復興産業拠点は、全線運転再開するJR常磐線双葉駅からは約2キロメートルと距離があります。交流人口拡大のためには自家用車に依存した社会ではなく、公共交通によってアクセスしやすいまちづくりを図る考えであります。そのため、産業交流センターの開業に合わせ、双葉駅から中野地区との間にシャトルバスの運行を開始したいと考えております。また、公共交通の新たな形として、多くの皆様が共有しお使いいただけるコミュニティサイクルの設置やカーシェアリングサービスの誘致を目指します。公共交通によって移動しやすいまちづくりは、国道6号の渋滞緩和に資するほか、二酸化炭素排出量やエネルギー消費量を削減し、環境に優しくかつ便利なまちづくりとして双葉町の新たな魅力になるものと考えております。

第三には、避難指示解除区域や特定復興再生拠点区域内において、双葉町の基幹産業である農業の再開を推進します。特定復興再生拠点区域内の農地についてではありますが、耕作再開モデルゾーンの長塚、羽鳥地区においては、昨年からの除染が実施されておりますが、未除染となっている地区においても順次実施されることとなります。そして、環境省が行う農地の除染と連携して、保全管理組合を組織し、除染後の農地等の保全管理や作付実証など、営農再開に向けた取組を切れ目なく支援してまいります。

避難指示が解除された両竹地区においては、先行して保全管理組合による農地の保全作業が行われており、加えて昨年は震災後初めてとなる野菜の試験栽培に取り組んだところでありましたが、台風19号の影響により中断してしまったため、令和2年度に再度取り組んでまいります。

また、昨年8月には株式会社舞台ファームと「農業に関する包括連携協定」を締結し、この一環として将来的な営農再開に向けた計画である営農再開ビジョン策定を舞台ファームとの協働で取り組んでおり、座談会などを開催しながら、農業者の皆様のご意見、ご意向を伺ったところであります。

このように将来的な営農再開に向けた取組を進めているところでありますが、農業者の高齢化、後継者不足や風評被害等課題が山積しており、引き続き国、県、関係機関と連携しながら、ソフト、ハードの両面から営農を再開するための環境整備に取り組んでまいります。

さらに、農業部門の体制を強化し、営農再開の推進や農業用施設の復旧などを加速させるため、令和2年度から産業課を農業振興課に改めるなど、行政組織の見直しを行ってまいります。

一方、避難指示解除区域や立入り規制緩和区域における町民の皆様のご不安にも対処いたします。

立入り規制緩和に伴い、通行証なしに誰もが特定復興再生拠点区域内に24時間立入りが可能となっていることから、令和2年度は町内パトロール体制の強化と引き続き防犯総合システムの整備を実施してまいります。さらに令和元年度に引き続き、幹線道路の防犯灯等の改修を進め、防犯対策を進めてまいります。その上で、特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除及び居住開始目標を令和4年春頃としております。それに向けた環境整備を着実に進めてまいります。

第一に、特定復興再生拠点区域内の生活インフラ整備を早急に進めます。上下水道については、配水管の整備後に既設管を修繕しながら各家庭の前まで給水できるよう復旧してまいります。双葉駅西地区については、上水道整備を含めた一団地整備事業が令和3年度までに実施される見込みです。

下水道についても令和4年春頃までに供用できるよう、処理場建設、管路の災害復旧の実施工程表を作成し、計画的に整備、復旧を行ってまいります。

また、アクセス機能強化及び安全性、利便性の向上を図るため、町道改良事業や災害復旧事業により幹線町道の復旧を行ってまいります。

第二に、役場機能の本格再開に向け準備を加速します。令和4年春頃に役場機能を本格再開するべく、JR双葉駅の東側で既存公共施設の活用を前提に、まずは双葉町コミュニティセンターを活用することを基本に、東口駅前広場に役場として必要最低限機能できるような簡素な庁舎を段階的に整備する案を中心に検討を進めていくため、新庁舎整備基本構想策定に取り組んでまいります。

第三に、教育の再開に向けても準備を具体化します。令和2年度中に仮称「学校在り方検討委員会」を設置し、学校再開に向けた具体的な取組を議論していく考えです。

なお、公共施設の被害状況は、環境省基準によるとほとんどの施設が半壊の判定であり、今後の対応については令和2年度において復旧調査を行い、利用の可否の判断を行い、利用ができない施設については解体を行ってまいりたいと考えております。

第四に、双葉駅西側地区の新たな生活拠点の整備を推進します。いわゆる駅西は、避難指示解除とともにまち開きし、帰還や居住を希望される方が集まって生活することができる駅前に広がるコンパクトな拠点です。中野地区とともに双葉町の復興を牽引する最重要な拠点であり、駅西のまちづくりを成功させることがまちなか再生ゾーンを初め、双葉町全域の復興につながります。そのため駅西は、双葉町の将来像を先取りし、地方創生のモデルを示す帰還したくなる持続可能なまちづくりを実現します。例えば電線地中化の推進やスマートコミュニティ形成による災害に強いまち、エネルギー自立性が高く、地域内資金循環を実現できるまち、次世代モビリティによる移動支援を受けながら、自家用車に頼らず自らの足で楽しく出歩くことができる「ウォークブルタウン」のまちを目指します。これらの実現により、二酸化炭素排出量やエネルギー消費量を削減し、環境に優しくかつ便利なまちづくりを図り、双葉町の新たな魅力を発信します。

その上で、駅西のまちづくりをモデルとして令和4年春頃の解除以降の双葉町のあるべき将来像を具体化し、取り組むべき施策を取りまとめる復興まちづくり計画（第三次）の検討に着手します。計

画の策定に当たっては、双葉町とのつながりを保ちたいとおっしゃっている町民の皆様や若い世代の町民の皆様はもとより、立地企業の皆様、震災前に双葉を離れたけれども、震災をきっかけにふるさと双葉に何らかに関わりたいと考えてくださっている方、双葉とはゆかりがなくとも、双葉を応援したいと考えてくださっている方なども含め、多様な方々を巻き込んだ活発な議論を行いたいと考えております。

また、まちなか再生ゾーンの再生に向けて、地域の方々が中心となった議論を活発化させたいと考えています。

さらに、町民の皆様の「生活再建」を図るべく、家屋の被害認定調査については特定復興再生拠点区域内における生活環境の整備や住宅再建、生活再建には欠かすことのできない重要な調査でありますので、迅速な事務処理を図ってまいります。

また、納税環境向上のため、ゆうちょ銀行を含む各金融機関及びコンビニエンスストアでの収納に対応した様式を作成し、令和3年度に運用開始できるよう、設計・プログラミング等に係る業務を実施して、町民の皆様の利便性の向上に努めます。

私たちが不安なく避難生活を送るために必要な施策として、医療費一部負担金等の免除と高速道路通行料金の無料措置があります。高速道路通行料金の無料措置については、新たに発行された「ふるさと帰還通行カード」により、2020年度も引き続き無料措置が講じられました。医療費についても一部負担金等の免除期間が1年間延長になりました。今後も町議会の皆様と連携を図りながら、引き続き国に強く要望を行ってまいります。

また、「町民のきずな・結びつき」の確保を図ることも最重要であり、避難生活の長期化に伴う町民の心身の健康の維持やコミュニティーの形成、生きがいづくり等に向けた各種事業も継続して実施していくこととしています。長期にわたる避難生活の中で最も重要なことは、町民の皆様が健康で生き生きとした生活を送ることです。そのため、総合健診の受診率の向上を図るとともに、疾病予防の取組を強化して健康増進に努めてまいります。

令和2年度も引き続き各種情報発信ツールを活用し、町行政と町民、町民相互の絆の維持、コミュニティーの充実を図ってまいります。また、令和元年度より開始したユーチューブを通じての町の情報を全世界に発信するグローバル配信も継続して行ってまいります。

さらに、町民相互の交流機会の確保と各行政区におけるきずな・結びつきの維持を図るため、行政区総会開催における経費の一部を継続して助成してまいります。生活サポート補助金については、避難生活の下支えとして町民同士の絆の維持の一助となるよう継続して取り組んでまいります。

将来の双葉町を担う小、中、高校生の再会の機会の創出と、児童生徒同士及び保護者同士のつながりと絆の維持発展のため、今年度は9月頃に「集まれ！ふたばっ子2020」を開催してまいります。

また、去年は台風接近のため中止となったスポーツフェスティバルですが、このイベントは多くの町民の皆さんがスポーツを通して運動不足を解消するとともに、再会を楽しむなど、町民同士の「き

ずな・結びつき」に大きな役割を果たしていることから、令和2年度も開催してまいります。

長期避難により地域のコミュニティーが失われ、先人から受け継がれてきた伝統文化の伝承が困難な状況になっております。伝統芸能は、地域の結束力を高める要でもあり、消滅させることなく次世代につないでいくために、民俗芸能伝承事業を推進してまいります。

以上、令和2年度の主な取組を述べましたが、町政運営に当たりましては、引き続き町民の皆様のご意見をお聞きし、議会と連携を図りながら、双葉町復興まちづくり計画（第二次）の検証を進めながら、復興まちづくり計画（第三次）の策定や各種復興事業に向けて職員一同全力で取り組んでまいりますので、議員各位並びに町民の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

以上申し述べまして、令和2年第1回双葉町議会定例会の開会に当たっての施政の方針といたします。

○議長（佐々木清一君） これで令和2年度施政方針を終わります。

◎請願の委員会付託

○議長（佐々木清一君） 日程第29、請願の委員会付託。

今期定例会において本日まで受理した請願は、お手元に配付した請願文書表のとおり、所管の常任委員会に付託したので、報告します。

◎散会の宣告

○議長（佐々木清一君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

（午前10時57分）

3 月 定 例 町 議 会

(第 2 号)

令和2年第1回双葉町議会定例会議事日程（第2号）

令和2年3月12日（木曜日）午前9時開議

開 議

日程第1 一般質問

3番 羽 山 君 子 君

1番 尾 形 彰 宏 君

5番 菅 野 博 紀 君

7番 岩 本 久 人 君

4番 高 萩 文 孝 君

散 会

○出席議員（7名）

1番	尾形彰宏君	2番	石田翼君
3番	羽山君子君	4番	高萩文孝君
5番	菅野博紀君	7番	岩本久人君
8番	佐々木清一君		

○欠席議員（1名）

6番 清川泰弘君

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	金田勇君
教育長	館下明夫君
秘書広報課長	鈴木健一君
総務課長	平岩邦弘君
復興推進課長	大浦富男君
戸籍税務課長	高橋秀行君
産業課長兼 農業委員兼 農事局長兼 コミュニティ センター所長	志賀睦君
建設課長	猪狩浩君
住民生活課長	中野弘紀君
健康福祉課長兼 青年婦人会館長	舶来丈夫君
生活支援課長	朝田幸伸君
会計管理者	井戸川陽一君
教育総務課長	橋本仁君
代表監査委員	石川雄彦君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	志賀公夫
書記	加村めぐみ

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） おはようございます。6番、清川泰弘議員から欠席の報告がありましたので、お知らせいたします。

ただいまの出席議員は7名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

（午前 9時00分）

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

◎一般質問

○議長（佐々木清一君） 日程第1、一般質問を行います。

通告順位に従って行いたいと思います。

通告順位1番、議席番号3番、羽山君子君の一般質問を許可いたします。

3番、羽山君子君。

（3番 羽山君子君登壇）

○3番（羽山君子君） おはようございます。議席番号3番、通告番号1番。ただいま議長より質問の許可を頂きましたので、一般質問をさせていただきます。

1番、先進地視察について。米国に核廃棄物により汚染された深刻な状況に置かれながら全米でも有数の発展を遂げた地域、ワシントン市ハンフォード地域がある。原子力災害から復興に取り組む当町においても、ハンフォード地域を訪問し、事例を学ぶことは大変有意義であると考えているが、町の考えをお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） おはようございます。3番、羽山君子議員の質問にお答えいたします。

1、先進地視察について。原子力災害から復興に取り組む当町において、ハンフォード地域を訪問し、事例を学ぶことは大変有意義であると考えているが、町の考えについてのおただしですが、東日本国際大学が令和元年度の福島イノベーション・コースト構想促進事業を採択し、米国ハンフォード地域との連携を進める事業に着手しており、本年1月25日にいわき市と双葉郡8町村と東日本国際大学を運営する昌平鬘により福島イノベーション・コースト構想の実現と浜通り発展につなげることを目的に連携協定を締結しております。今後、令和2年度中に連携協定を基に双葉地方町村会としてハンフォード地域の視察を実施する予定です。

○議長（佐々木清一君） 3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） 今年ですか、ハンフォードを視察するに当たって、アメリカで最大級の核廃棄物問題を抱えておられるハンフォードを見に行き、やはりそこに住んでおられる住民や企業が放射能、要するにプルトニウムに対しての不安をどのように払拭されたか。また、アメリカでも有数の繁栄都市になったということで、1,000人の人口から30万都市になったということなのですが、事故は違えども共通点を見いだすことは参考になるのではないかと。それは、視察は大いに結構なことであると思うのですが、皆さん今度視察されるに当たっては、どなたが行かれるかちょっと私も分からないのですが、机の上だけでは絵に描いた餅にもなりかねないし、町も100億円以上の税金をかけて復興を整備しているので、町の担い手となっている若者、町民など町民参加型の視察をすることも重要ではないかと思えます。そこからいろいろな見えてくるものがあると思いますが、1人で行くのと、1本の矢は折れても2本の矢は折れないということありますけれども、1人で行っても見えてくるものはそこそこ。やはり2人、3人、10人と行くことによって、まして町民が行くことによって見えてくるものは大きいのではないかなと思えます。ぜひその町民参加型をお願いしたいというのが私のほうの本音というか、この町を再生するに当たって、復興するに当たってのお願いであります。

また、町長が3月4日の解除に向けたインタビューに、住みたいと思う町にということとは、これから、高齢者ばかりが住みたいと思う町ではなくて、若者が住みたいと思う町にするためには、やはり若者もそういうところを見てきて初めて、あっ、こういう町、双葉町にすればいいのだなということがよく分かるわけです。こうしなさい、ああしなさいでは、実際に見たわけではないので、分からないのではないかなと思うのです。そこで、ぜひその視察、私は一般財源をかけてもぜひこれはお願いしたいところだなと思って、そうすることによってもっといい双葉町、帰りたいと思う町、住みたいと思う町になるのではないかなと思えますので、町長のもう一度ご意見をお伺いしたいと思えます。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山君子議員の再質問にお答えいたします。

先ほど申し上げた内容のとおりであります。さらには双葉町の復興、原子力被災地としてどういう復興を成し遂げたか、ワシントン州ハンフォードの先進事例に倣って双葉町もそういう取組をしたらどうだというふうなご指摘だと思います。さらには、町民の皆さんに参加をしていただくことによって、同じく復興のためにその先進事例を勉強して取り組むというふうな考えだと思います。まさに今回、先行事例のハンフォードに検証させていただいて、その次に町民参加型の、今ご提案ありましたものに対してどういうふうな取組をしていけばいいのかということも検討させていただきながら、町の人たち、戻りたいと思う人たち、さらにはいろいろな考えのある人たちも含めた検討を重ねていきたいと思えます。

○議長（佐々木清一君） 3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） これは、いつまでも長引いていても、町もだんだん復興して、少しずつでは

ありますが復興してきます。そうした場合に、こうしておけばよかったのではないかということも出てくるかなと思うのです。ある程度短期間ではないと、そういうことは見てきてすぐに実現するわけでもない、やはり工程表をつくったり、いろいろなものをこういうふうにしたほうがいいのか、いろいろ議論、かんかんがくがくあると思うのです。だから、町長さんが最初行かれるにしても、その次の時点のことを早めに考えて、今年中とか、やはりそのぐらいまでのことを考えないと、ではできませんでした、こうしたほうがよかったでは、そこでまた二重の経費もかかるので、その辺のことをよろしくお願いいたしておきます。

それでは、2番に移りたいと思います。帰還困難区域解除までの生活支援について。国は、帰還困難区域について、将来的に全ての避難指示を解除する決意の下、特定復興再生拠点区域を認定したが、それ以外の区域や見通しすら示されていない。町民は、土地を所有していても収入が得られず、耐え難い理不尽な状況が続く。解除されるまでの間の生活支援について、国、東電に何らかの行動を起こすべきと考えるが、町長の見解をお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、帰還困難区域解除までの生活支援について。解除されるまでの間の生活支援について、国、東電に何らかの行動を起こすべきとのおたただしですが、現在令和4年春頃の特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除を目標に取組を進めております。特定復興再生拠点区域外の帰還困難区域については、自民党、公明党の東日本大震災復興加速化本部の第8次提言を踏まえ、段階的に拡張するよう国と協議をしております。しかしながら、避難生活は長期化しており、町民の皆さんの被害実態に即した賠償の実施と、長期避難による生活再建支援の実施について、これまでも国及び東京電力に強く求めてきているところであります。町としましては、要求要望活動や町内視察を継続時に実施し、国などの関係者に対して、町内の一部区域の避難指示が解除されたとはいえ、全町避難が続いている町の特殊な状況を理解していただき、被害実態に即した賠償、生活再建支援の改善につなげていきたいと考えておりますので、今後とも引き続き関係機関と連携し、賠償や生活支援策などの充実について粘り強く求め続けてまいります。

○議長（佐々木清一君） 3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） 除染で線量も下がりましたし、町自体の方向性も、新たなまちづくりでようやく見えてきたような気もしますが、でも町外に避難させられて、いつ自分の所有の土地から収入を得て生活できるか見えてこないです。その工程すら見えてきません。幾ら陳情した何したと言っても、どこかに何かちょこっとでも見えてくれば、皆さん明るい気持ちにもなるかなと思うのだけれども、農業者年金だけではどうしても。そして、さらに今度帰って、いざ、では帰りました、ではその区域外の方がどのようにしてそこから収入を得るのかとなるまでは、相当な時間が必要なのではないかと思うのです。

そんな中で、もう丸9年、今度10年目に入りましたけれども、いつまでもその陳情だけでは町民、

いつも納得できる生活はできなくなるわけです。逆に国の支援を受けたほうがいいみたいな形になってきますので、では自分の土地をいつ使用することができるようになるのか、国にいつまでもぶん投げておいてもらっても困りますし、その辺のことをきちんとしてもらわないと生活が成り立っていかないわけです。確かに、いわきに避難しています。郡山に避難していますといえども、自分の土地であれば、春、夏、秋、冬帰って野菜植えてきたり、やっぱりちょこちょこ見ることもし、それをまた頂くこともできるという状態になるのです。そうすることによって自分のお金、生活費も得るということにもなりますので、この辺のことをぜひ国に、何度もというか、どうにかして解決策を考えてほしいなと思っていますし、また国等では既に賠償済みと言っている農家の機械とか何かだつてまだまだ使えたのです。納得できるような賠償を頂いているならば、もっと生活も時間もあつたと思うのだけれども、そんな納得できるような金額は頂いていないはずです。だからこそ皆さんうちに帰って畑作りたい、田んぼ作りたいと言っているわけですが、その区域外のその人たち何%といたら、もうすごいパーセントであるわけです。6号線から反対側全てそうなので、やっぱりその辺のことも考えて国と交渉してほしいなと思っています。

本当に帰還困難区域、将来に全ての区域において避難指示を解除する決意があるならば、もうそろそろ町の事態の方向性も少しずつ見えてきているわけですから、少しずつでも反対側のほうの区域外の地域の田んぼ、畑をそろそろそういう使えるものに、国とか県に陳情させていただいて、それは強く要望もしていただきたいと思っていますが、町長のもう一度ご意見をお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の再質問にお答えいたします。

2点あるのかなというふうに考えております。まず、1点につきましては、今現在避難生活が継続している町民の皆さんの賠償の取組ということだと思えます。賠償については、まず当町の一部区域において避難指示が解除されたとはいえ、他町村と比べて長期にわたり避難生活が継続されております。さらに、一人一人個別の事情を抱えていることは理解しており、町としても引き続き東京電力や国、さらには賠償の指針を定めている原子力損害賠償紛争審査会へ、避難生活の実情に応じた賠償を引き続き継続することを強く要望しております。

さらには、今回の特定復興再生拠点区域外の帰還困難区域についての農地の再生利活用についてのおたしだと思えますが、その件につきましては、当然国は時間がかかろうとも帰還困難区域の全域を避難指示解除するというふうに閣議決定をしております。そういった中で、当然令和4年春の特定復興再生拠点区域の避難指示解除を目標としてやっておりますが、それで終わりということではなくて、まさにスタートだと思っています。その後、さらに双葉町で約70%以上のエリアが入っております帰還困難区域の除染であったり農地の再生利用、そういったことは、当然継続してやっていかなくてはなりませんし、次のステップに向けて、今、国に対しては、町としていろいろな協議をして、どういうふうな方向で次のステップに向けての取組ということで、今、水面下ではございますけれども、

取組をしているところでございます。

○議長（佐々木清一君） 3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） 国は、帰還困難区域というのをなぜ「帰還」とつけたのだろうかと思うのです。時間かかっていけば年も取っていきますし、やはり帰還困難区域の意味が分かれば、逆に言うと賠償もさることながら、その使えない土地もさることながら、はっきり国では分かるはずなのです。帰れないのです。帰れない区域について将来帰すと言っているのですけれども、将来はいつなのかと。私たちからすれば先がないのです。やっぱりないではないですか。そうしたら、その辺のことも強く国のほうに要望していただいて、帰還困難区域の意味、高線量帰還困難区域の意味をよく賠償のほうでは考えていただいて、もう少し強く要望されるようよろしく願いしておきます。

それでは、3番に移りたいと思います。3番、中間貯蔵施設について。中間貯蔵施設の跡地及び汚染土の再利用について、国、県からどのような説明を受けているのかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番、中間貯蔵施設について。中間貯蔵施設の跡地利用及び除去土壌等の再生利用に係る国、県からの説明についてのおただしですが、初めに、中間貯蔵施設の跡地利用については、国及び県からは、具体的な説明はまだ受けておりませんが、環境省が取りまとめた中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略及び同戦略工程表において、同省は30年以内の県外最終処分に向けて、まず減容・再生利用の基盤技術を2024年度までに一通り完了させ、跡地利用等の検討については、同年度以後に本格化するとしております。

中間貯蔵施設の跡地利用につきましても、中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定にも規定されているように、苦渋の決断で施設を受け入れた当町、大熊町及び福島県の意向を十分に踏まえ、地域の振興及び発展に資するものとなるよう、適切な時期に環境省を初めとした関係機関と協議、検討していく必要があると考えております。

次に、除去土壌等の再生利用について、環境省からは、8,000ベクレル以下の除去土壌等を対象として、再生資材は管理主体や責任体制が明確となっている公共事業等における盛土等の構造基盤の部材に限定し、適切な遮へい厚の確保や継続的な維持管理を行うことにより、作業員や周辺住民等の追加被曝線量を一定の基準以下に抑えるという方針の下、地元の理解を得た上で限定的に行うこと。また、現在実証事業を南相馬市と飯舘村で行っていることなどの説明を受けてきたところです。

○議長（佐々木清一君） 3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） 最初、中間貯蔵施設、私たちに、施設にするから土地を売ってくれないかと言ったとき、30年たった元どおりにして帰すという条件だったのですけれども、何かこの頃環境省のほうで、除染土壌の再利用について環境省は、放射性物質汚染対処特措法の施行規則の一部を改正する省令案というのをまとめたそうなのです。それは何かと云ったら、それは再利用についての案をいろいろいろいろまとめてあるらしいのですけれども、私たちからすれば、そういうことは全然知ら

なかったのであって、県外搬出30年だけを頭に置いていたら、いつの間にかこういういろんな特措法とか一部省令改正とか、そういうのが知らない間に出されていて、今度再利用すると。再利用したら、今度は飯舘村でも何だか実は交換条件みたいなことを出されたいきさつがあって、その再利用の実験をやってみたということらしいのですけれども、これは国は法制化しているとか何とか言いながらも、環境省のほうと色々な問題というか、再利用に向けてのいろんなことをやっているみたいなのですけれども、私たちは、絶対に除染土の再利用を町で再利用をされることも反対です、確かに。でも、やはりこれいろいろなことを、こういう何とか法、特措法とか何かというのが出てきて、省令の一部とか何かで出てきて、もしこの双葉町のどこかで使う、例えば小高だって反対されたけれどもそうだったとか、いろいろあります。そういうことというのは、私たちの耳にも入っていないうちにそういうことされて、まだ改正する省令案の一部は承認されていないと、反対しているという話は聞いたのですけれども、やってはいけないことをやっても平気なのかなと思うのです。私たちが環境省の説明を受けたとき、こういう話は聞いていなかったのです。そういうことからって、何でそこまで私たちがいつまでもこうしていなくてはならないの。黙っていなくてはならないの。再利用についてのそういう明細だつてするときは、この役場に来て説明して、初めてそういう省令は出しますよとか、何かしたいのだけれどもという話があればいいのだけれども、何にもないというのでは、もう私はちょっと憤慨したところなのですけれども、双葉も交流センターや復興拠点とか駅なんて近くではないですか。それでなくても除染土だらけなのです。何でも環境省も買い上げたと言ったからといって、町のその土地を自由に使うといっても、30年に元に戻して返すと言ったのだから、私たちからすればどうなっているのだろうとってしまうのは当然なのですけれども、さらに今度敷地内で除染土の再利用の実験も近く行われているなど聞くと、こう、法制化しているといっても、法制化がどこにあるのだろうと思っています。やっぱりそういった意味では、30年という縛りでなくて、なるべく早く、県外搬出と言っているのだから、やはり県外搬出をしてほしいと。

さらに、その県外搬出をしますよと言ったとき、町として取り交わした文書、契約書とか何かあるのかどうかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の再質問にお答えいたします。

まず、町として再生利用を認める云々の話ですが、現在中間貯蔵施設には、県内各地の除去土壌等が大量に搬入し、及び貯蔵されております。加えて町内の除染も完了していない状況にあることから、除去土壌を公共事業等へ再生利用することについては、まだ議論を始められない段階であると考えております。当然町として認めているわけではございません。さらには、法制化、法律があるのか、そのことの契約書があるのかということでございますが、それについては、今はっきりしたものを持っておりませんが、その取決め、契約書そのものはあるというふうには判断しておりません。そういったことで、町そのものが今回の再生利用の判断云々のできる状況にないということと、今回の

8,000ベクレル以下の除去土壌に対しての再生利用に関しては、あくまでも地元自治体との理解を得た上で限定的に行うことというふうになっておりますので、町としては、そういうふうな考えは持っておりません。

○議長（佐々木清一君） 3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） 契約書とか何か法制化と言われましても、その時の総理大臣、その時の大臣、その時の県の知事、全てやはり代わります。町もそうですけれども。そうなったときに、これ30年後私たちもいませんし、やはり後世にこういうことを残してはいけないと思えば、さらにこの国から契約書を法制化しているのではないかと。法制化だけでは納得できないので、せめて契約書を保管できればなど。していただきたいなと思っております。

さらに、この前、これ関連としてなのですけれども、焼却灰の火入れ式がありました。その灰は、私も持ってきたのですけれども、何年とは書いてありませんけれども、こういうふうにして保管するのだとか、どういうふうにして保管するのだとかということで、このパンフレットは頂きましたけれども、私たち勉強会が午後からありまして出席できなかつたのですけれども、どのように保管されて、何年くらいまたその8,000ベクレル以上、以下、どのように保管して何年どこに保管されるのか、その辺のことをお分かりであればお聞きしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（佐々木清一君） ちょっと休議します。

休憩 午前 9時29分

再開 午前 9時30分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

それでは、先ほどの羽山議員の質問については、関連ということで、町長のほうで丁寧な説明、分かる説明をしていただくことをお願いします。

町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の再々質問に建設課長のほうから説明をさせます。

○議長（佐々木清一君） 猪狩 浩建設課長。

○建設課長（猪狩 浩君） 羽山議員の再々質問についてご説明申し上げます。

減容化施設で焼却された灰の、またそれを減容化いたしますが、それにつきまして、中間貯蔵施設内に灰の保管場という鉄筋コンクリート造りの建物の中に専用の容器、鋼製とか鉄製といいますか、そういう容器に入れまして保管いたします。そして、保管期限なのですが、一応土壌と一緒に30年後といいますか、30年後に県外処分ということとなっております。

○議長（佐々木清一君） 最後に、今の質問に対しての答えで終了してください。

3番、羽山君子君。

○3番（羽山君子君） それでは、30年後に持ち出すということで、たしか放射能では放射性物質は

外には持ち出せないという法律があるような気がしましたがけれども、30年後には持ち出すという国の方針なので、分かりました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（佐々木清一君） 通告順位2番、議席番号1番、尾形彰宏君の一般質問を許可いたします。
1番、尾形彰宏君。

（1番 尾形彰宏君登壇）

○1番（尾形彰宏君） 1番、尾形彰宏、通告順番2番。議長の許可に基づき一般質問をさせていただきます。

改めまして、おはようございます。2020年3月、今現時点における昨今の状況は、新型コロナウイルス感染ということで、非常に閉鎖的な状況が続いております。私の質問も、つまるところ、人を集めるための創意工夫という形になるので、今の新型コロナウイルスを含めた国内、国外を含めたパンデミックと一般的に言われているような状況に近い部類も入ってきているという環境の中で、新たな双葉町の復興に基づくようなイベント性あるものを提案し続けるというのは、なかなかつらいものがあります。

では、一般質問に入らせていただきます。1、双葉町役場庁舎についてということであります。昨年11月11日、双葉町議会は、双葉町公共施設や町内道路状況の視察を実施してまいりましたが、中でも暫定的な駅コミセンの利用のみでなく、当然新庁舎の構想も考え始めるべきだろうと思っております。そこで、未来を踏まえた上で、町庁舎と災害、防災対応を軸とした複合型施設も構想策定の段階では考慮すべきであり、十分価値があると思われまます。利便性やアクセス面を考えると、解体した双葉町体育館跡地なども有力な候補になっていると思われまますが、町長のお考えをお伺いします。よろしくお願ひします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 1番、尾形彰宏議員の質問にお答えいたします。

1、双葉町役場庁舎について。新庁舎の構想についてのおたただしですが、去る2月18日の議会全員協議会においてご説明しましたように、まちなか再生や中長期的なにぎわい創出の観点から、駅東側に役場機能を配置した場合、国道6号からのアクセスが容易となり、既存公共施設の利活用に加え、駅東側のまちなか再生ゾーンの中核施設となり、既成市街地の復興再生を進めていくことができると考えております。このことから、役場機能の再開に当たっては、令和4年春頃を目標とする特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除と住民帰還開始時期を見据え、双葉駅の東側で既存公共施設の活用を前提に、まずは双葉町コミュニティーセンターを活用することを基本に、一団地事業で整備する東側駅前広場に役場として必要最低限機能できるような簡素な庁舎を段階的に整備する案を中心に検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、議員ご指摘の災害、防災に対する機能については、重要な課題でありますので、その在り方について検討してまいる考えです。

また、双葉町体育館跡地につきましては、民間による土地利用など、既成市街地の復興再生につながる活用方策などについて、幅広く検討してまいりたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 1番、尾形彰宏君。

○1番（尾形彰宏君） 私は、昨今、地元の建設企業の解体に伴う重要書類とか書籍とか、浪江町の倉庫移動を手伝ったのですが、その中で、書籍の中で過去の双葉町町長の追想とか、そういったものを読むことができたのですが、その書籍の中では2031年、あと11年後です。双葉町としてできた、双葉町という名前ができた合併80周年という節目に当たります。そのことについて、過去の町長の語録の中に触れているわけです。町長が今2期目をやっているわけなのですが、やはり未来ということに対して強い気持ちとともに、希望を与えるような考え方ということ、こういうご時世ではあるのですが、絶えず失わない。聖火のともしびを消すことがないようにというふうに強い思いをするところであります。

私は昨今、3月の上旬、そこで北小学校前から中野、中浜地区のシンボル軸、2.5キロありましたが、そこを2時間半かけて自分の徒歩で、建設中の橋の上も、特権というのですか、技術系なので、渡らせていただいて、実際に歩いてみました。その中で、今建設中の産業交流センター、それから県のアーカイブ施設、もちろん双葉駅、これらというのは3階、4階の構造なので、すごく近づいて分かるのですが、大きいのです。双葉駅は、今度開通式あります。東西の通路、意外と大きなみないな印象なのです。デザインもしっかりしている。恐らく産業交流センターなんかもっと、えっ、こんな大きいのだったけみたいな形になります。何が言いたい。要するに、ああいうものというのは、もう30年後、50年後、50年後は分からないけれども、長期的な計画の中で都市計画、あるいはまちづくりのプランということも加味した形での計画だと思うのです。何が言いたい。バランスです。確かに今のところの状況の中では、今町長がおっしゃったような時限の考え方というのはやむを得ない。これはやむを得ないです。甘んじているわけではないのだけれども、やむを得ない。妥当な方法かとは思いますが、しかし、やはり長期的なプランということで、全体のバランスを考えながら、庁舎ということは考えていただきたいということです。

なおかつ、その複合型施設ということであるのですが、私とその前田川河畔の隣の体育館跡地ということに注目したのは、そこに仮に立体駐車場をつけて、洪水災害とかの予防に備え、それでなおかつ人の往来もプラスになるような形の公共施設ができれば、その2階、3階から前田川河畔が見えるわけです。そこには各先人が植えた桜並木が見えるわけです。かつて、知っているとおりの、町長も私と同じ年齢なので、以前町の役場は、根小屋川の前田川のほとりにあったわけです。先ほど話していた双葉に関する書籍の中で双葉町史があります。1巻から4巻まであります。そうすると、なぜ双葉町ができたのか、基本は前田川です。清戸迫古墳、あれ前田川が見えるところにあるわけです。今は

森とか林になっているけれども、基本はあそこです。高台です。そういう先人から受け継いだ前田川を大切にするという思想は脈々と続いていて、結局のところ、どういうところに来ているかという、双葉町の海浜公園が55選であり88選であり100選でありという流れに来ている。それは、我々もやはり受け継いでいかなければならない。新しい庁舎というのは、前田川を見、前田川が氾濫することも含めての防災体制ということをしちんとするということは、消防団関係の施設も併せて、その公共施設の中に入れる。これは、日本全国調べてみたらあります。人口の少ないところは、意外なことにやっぱり役場の職員の人たちが消防団の一員だったりして、事例はあるのです。ということで、これは大きくちょっと考え方を改めて、考え直していただきたいということで、要望としてあるのですが、ちなみに令和5年は双高100周年で、2031年は双葉合併80周年という節目の年になるわけです。その時までまだ皆さんかくしゃくとしていらっしゃると思います、ここにいる人は。ということは、今町は第三次のまちづくり計画ということで計画を策定しようという段階だと思うのですが、その辺の町長としてのビジョンについて、役場庁舎に関わることを含めてのことなので、お聞かせいただければと思います。再質問です。よろしくお願いします。

○議長（佐々木清一君） 尾形議員に申し上げます。通告が役場庁舎ということになっておりますので、今新しい町のビジョンの計画についての通告はされておられません。ですので、ここは執行者が答えられる範囲にとどめますので、よろしくお願いします。

○1番（尾形彰宏君） では、質問を変えます。

○議長（佐々木清一君） いや、いいです。

○1番（尾形彰宏君） いいの。答えられる範囲内で。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 尾形議員の再質問にお答えさせていただきます。

まず、役場庁舎の対応、双葉駅であったり復興シンボル軸の先にある中野の産業拠点にあります産業交流センター、そういったものの規模感、規模的なものご指摘もあったかと思います。そういったような景観的なもの、さらには海を見渡せるところ、前田川を見渡せるような位置的なものというふうな考えがおりなのかなというふうに伺いました。そういった中で、町として先ほども答弁で申し上げているとおり、まず慎重に段階的に庁舎を整備していきたいと。まずは双葉駅の南側にあるコミュニティセンターを活用しながら段階的に整備をしていきたいと。さらには、駅西地区の一団地事業での町民の皆さんが戻ってきてもらう場所、そこは居住エリアであったり、いろいろな施設の構想も持っておりますが、駅西だけが復興再生しても双葉町にとってベストかということ、まだ物足りないかなというふうな考えをしております。そういった意味では、本来の双葉町の中心である双葉駅東側をどういうふうに復興再生させるかということを考えましたときに、やはりシンボルになる双葉町役場というのは、駅の東側が今の状況では立地にはなっているのかなというふうに考えております。

さらに、議員ご指摘にありました双葉町体育館、現在更地になっております。そこの利活用につい

てもいろいろご見識あったと思うのですけれども、あそこにつきましては、現在解体工事を終わった後、報告を受けておりますと、まず前田川の河川改修工事を当然しなくてはならないと。そういった中で、昨年の19号台風、さらには大雨の被害で決壊してしまうというふうな危険性もあります。そういったような改修工事をしっかりとした上での利活用というのを考えていかななくてはならない。さらには、双葉町体育館は、地盤が軟弱地盤であったということが今回分かりまして、当時建設したときにコンクリートパイルを随分入れて建設をしていったというふうな事実関係もございますので、そういうふうな土壌改良、さらには河川の氾濫等ないような取組を含めて、町全体的に皆さんにしっかりと災害に強い町、さらには戻ってきてよかったと思えるようなまちづくりを検討していきたい、そういうふうにご考えております。

○議長（佐々木清一君） 1番、尾形彰宏君。

○1番（尾形彰宏君） ありがとうございます。それが前提となることは十分心得ております。

それでは、次の2番目の質問に入らせていただきます。子供たちの参加による、駅や産業交流センターのデザイン等についてということであります。昨年9月21日、ふたば未来学園の研究発表会に行きまわりました。その中で、子供たちが積極的に地域づくりや風評被害払拭に関わっている様子が伝わり、感動的でした。他町村を参考として、双葉町としても幼稚園児から小中学生、そして高校生にも参加していただき、JR双葉駅の東西を結ぶ自由通路の活用や産業交流センター内のデザイン等をやっていただきたいと考えますが、町長のお考えをお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、子供たちの参加による、駅や産業交流センターのデザイン等について。双葉町としても、幼稚園児から小中学校、そして高校生にも参加していただき、JR双葉駅の東西を結ぶ自由通路の活用や産業交流センター内のデザイン等をやっていただきたいとのおたがしですが、JR双葉駅は、令和2年3月14日に運用開始となり、産業交流センターは令和2年7月中の運用開始を予定しております。両施設とも町の復興の先駆けとなるシンボル施設となることから、双葉町の子供たちが復興まちづくりへ参画することは、大変意義のあることであり、重要なことであることは認識しております。つきましては、JR双葉駅の東西自由通路や産業交流センター内の共有スペースなどに子供たちが思い描く町に関する作品の作成及び展示などについて、検討していきたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 1番、尾形彰宏君。

○1番（尾形彰宏君） ご答弁ありがとうございます。やはりこれは判断をするのは地域全体の親御さんの考え方だということになると思うので、そういう働きかけが果たしてできるのかということもあるのですが、子供たちを参加させたり社会見学をさせたりということについて、どうなのでしょう。今現在、一部解除ということで、一般メディアに、駅それから中野の中核拠点も含めて、なおかつバスの通行も検討していらっしゃるということで案内いただいているのですが、現実的に作品を出

すだけではなくて、定期的にご子供たちが社会見学とか含めて、利用あるいはイベントに参加するということについてのお考え、おありなのかどうか、作品展示だけではなくて、現実的に例えば年内とか、そういう今の状況を町長にお伺いしたいのですが、お願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 尾形議員の再質問にお答えいたします。

まず、いろいろな産業交流センター、さらには双葉駅での先ほど申し上げたような作品展、展示会、そういったものだけではなくて、定期的にご子供たちが双葉町内のいわゆる復興状況の見学ということになるかと思っておりますけれども、そういったものを行ったかどうかというふうなおたただしだと思います。そのことにつきましては、教育委員会ともしっかりと相談をし、まずはご子供たちの安全安心、まさに健康被害のないような取組というのが一番最重要課題だと思っておりますので、そういったこともしっかりと考えながらやっていきたいと。今現在でそういう規制があるわけではございませんけれども、しっかりとさらに安全な取組ということも含めて検討していきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 1番、尾形彰宏君。

○1番（尾形彰宏君） ご答弁ありがとうございます。ちなみに、ふたば未来学園の研究発表会の時に、かつてJヴィレッジのトップで業務をされていた方と久しぶりに、その方は南相馬市小高区の方だったのですが、今民間企業から一般法人として、ご子供たちの教育とか、そういう部分で未来学園と関わっていらっしゃる。その中で気づいたのは、今双葉町について言うと、ご子供たちの香りとかにおいとかがしないという現状がどうしてもあります。そこで、これ質問ではないのですが、町長にぜひそういう部分でもご理解、ご協力いただきたいと思っております。

では、3番目の質問に移らせていただきますが、よろしいですか。3番目、大型高精細テレビの導入について。今年、東京オリンピックが実施される記念的な年ですが、当双葉町にとっても常磐線開通とJR双葉駅、産業交流センターのオープンと明るい話題が予定されており、町の広報や社会状況の情報提供に大型テレビは欠かせませんというふうに思っております。現在、役場いわき事務所や各支所を含めてプレゼン、プレゼンというのはプレゼンテーション、説明の部分なのですが、パブリックビューイングにもなるということで、大型高精細テレビの導入をご検討いただきたく思いますが、町長の考えをお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番、大型高精細テレビの導入について。町の広報や社会状況の情報提供のための大型高精細テレビの導入についてのおたただしですが、現在町からの情報発信として、紙ベースで「広報ふたば」や「ふたばのわ」、また動画配信としてYouTubeでの双葉町公式チャンネル、タブレット端末による町民の絆及びコミュニティの維持、発展を目的として情報を発信しているところであります。また、昨年6月27日からは、町の現状や町民の思い、今後の復興に向けた取組など、様々な情報を動画で全世界に向けて発信する双葉町グローバル配信を開始し、多くの皆さんに町の復

興の取組をご理解いただけるよう進めております。

尾形議員のおただしのおり、今年は復興五輪として東京オリンピックの実施が予定されております。また、町としても、3月4日に一部区域の避難指示が解除された特別な年であります。現在、双葉町民は全国42都道府県、342市町村に避難しており、町民の皆様は町の情報をお知らせすることが基本でありますので、広報業務の在り方や内容の充実を図りつつ、国内を初め全世界に町復興の取組の情報を発信してまいりたいと考えております。

一方、大型高精細テレビ導入の検討につきましては、課題も様々あると思っておりますので、必要性、重要性等も考慮するとともに、今後の避難指示解除時期を見据えた役場機能の在り方等も踏まえ、導入の可否について検討してまいりたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 1番、尾形彰宏君。

○1番（尾形彰宏君） ありがとうございます。私のイメージの中では、一連の町に人を呼ぶというふうな、さっき大きなテーマを冒頭で言わせていただきましたけれども、こういうご時世でありながらも、しかしながらやはりそういうことをやっていかないと、町自体がすごく何か萎縮しているような、そういうふうなちょっと風潮もあるので、大切なのは、やはり部分解除になって駅がオープンになったと。常磐線も開通している。私は、今度の14日の開通式、JRに確認しましたところ、始発の5時23分いわき発の原ノ町行き、乗れるということでした。それで6時に着いて、7時にはもういわきに戻ってこれる、そんな環境が14日。式典云々ではなくて、一般の人たちにも開放されると。そういう状況の中も含めてなのですが、やはり待ち時間、駅舎というのはあるわけです。かといってほかのところに行くといっても、そんな行く場所がまだないですから、そうすると当然のことながら、駅の中を20分でもうろうろするような時間ができてしまいます。自分のイメージでは、私のこと言って申し訳ありませんが、町のPRビデオを流すと。一番の理想は、やっぱりコンシェルジュ、女性の方でも男性でもいいのですが、がいて、構ってもらえると。待ち時間の間です。一番理想です。でも、最低限PRビデオなんか流していただいたほうが、インターネットは個別のものなのですが、PRビデオとか大画面で流すと情報の共有ということで、その共有はばかにならないわけです。個別で見るものと違って連帯感ができてきます。そういうふうな心の創生、創造です。そういうことをかき立て、思い出にもなる、ああ行ったよねみたいな話。それでできれば高精細のテレビがないとももちろんこういったPRビデオは見れない、あるいは個別でどうしても見てしまうみたいな話になってしまうので、そういうことでも双葉町の駅の使い方としての演出ということになるのでしょうか、一役買うのではないかというふうに思います。高精細テレビの導入ということで、その部分についても、これはもはや要望になってしまいます。どうですかと聞かれても検討していただくしかないのです、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。終わりです。

○議長（佐々木清一君） ここで休議します。

休憩 午前10時00分

再開 午前10時10分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

◎発言の訂正

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 先ほどの羽山議員の一般質問の中で、説明員が中間貯蔵施設に関する説明で、「30年後」というふうな発言をしておりますが、「30年以内」ということで訂正をお願いしたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 通告順位3番、議席番号5番、菅野博紀君の一般質問を許可いたします。
5番、菅野博紀君。

（5番 菅野博紀君登壇）

○5番（菅野博紀君） 改めまして、おはようございます。通告番号3番、議席番号5番、菅野博紀。ただいま議長より一般質問の許可が出ましたので、通告に従い一般質問をさせていただきたいと思っております。

1番として、中間貯蔵施設について。現在、双葉町内に行ってみると中間貯蔵に関わるダンプカーが非常に多く見られます。一時帰宅やお墓参りなどで帰宅する双葉町民との事故などが心配ですが、双葉町として対応はどのようにしているのかお伺いいたします。

また、中間貯蔵施設は、本当に30年で汚染土壌などを県外に搬出できるのか、当町との約束に関してお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 5番、菅野博紀議員の質問にお答えいたします。

1、中間貯蔵施設について。初めに、町内を走行する中間貯蔵施設事業関係車両等から町民の安全を確保するための町の対応についてのおたただしですが、これまで町では環境省に対し、様々な機会を捉え、道路交通法等関係法令を遵守することはもとより、安全の確保を最優先とした車両の走行を求めるとともに、町内パトロールにおいて輸送車両等の走行状況や輸送路の状況等を確認し、安全対策を個別に求めておりました。

今般、避難指示解除立入規制緩和を実施するに当たっては、歩行者への注意や一般車を優先した走行を改めて求めるとともに、常磐双葉インターチェンジの開通に伴い、復興シンボル軸を利用した輸送がなされる予定となっていたことから、新しい輸送ルート of 安全確保を求めました。これを受け、

環境省では、避難指示解除に先立ち、これまで厚生病院ゲートを利用していただいていた車両について、高万迫ゲートを利用するよう変更しました。また、復興シンボル軸では関係機関と連携した枝払い及び除草による見通し改善などが図られたほか、一般車への影響を確認しながら、車両通行台数を段階的に増加させるなどの安全対策が実施されております。環境省では、来年度も今年度と同程度の量の搬入を行うこととしておりますが、町としましては、環境省に対し、搬入目標数量の達成にとらわれることなく、安全の確保を最優先に事業を実施するよう引き続き求めてまいります。

次に、環境省が町と約束した除去土壌等の30年以内の県外搬出を確実にできるかとのおたがしですが、除去土壌等の県外最終処分につきましては、中間貯蔵・環境安全事業株式会社法において、国は中間貯蔵開始後30年以内に福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずるものとして定められております。また、中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定においても、同様の事項が定められております。これまで環境省では、中間貯蔵開始後30年以内の県外最終処分完了につなげるため、2016年に策定した中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略に沿って減容処理技術の開発、再生利用の推進等の取組を実施してきているところであり、今後は当該戦略目標年度である2024年度に向け減容技術の絞り込み、最終処分の対象となる土壌の形状等について整地化を進め、最終処分の方式、最終処分場の構造や必要面積等に係る選択肢の検討などを実施し、県外最終処分の実現につなげていきたいとしております。

町としましては、今後とも除去土壌等の県外搬出及び最終処分が確実に履行されるよう、環境省の取組を注視していくとともに、引き続き法律及び協定書の遵守についてしっかりと国に求めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） ご答弁ありがとうございます。再質問の1つ目で、おととい10日の日の町長の施政方針のほうで書かれてある中間貯蔵に関して、「交通事故防止のために道路整備が不可欠であります。双葉町における輸送ルートとしての農道原田前田線の整備や町道山田郡山線の改良工事、富沢橋の架け替え工事については、今年度中に終了して供用開始されており、輸送に伴う安全対策に大きく寄与するものと考えております」ということを町長おっしゃいました。約束事というのはここなのです。これというのは、中間貯蔵を受け入れてくださいというときに、さっきこれダンプカーの往来とか何とかというのをちゃんとするために、それは整備してからやりますと言ったのです。協定書はあるはずなので、その協定書の不備です。そういうところまで入っていないのです。例えば本当に今輸送がパイロット搬入、当町はパイロット搬入です。試験的に入れているわけです。その中で、それでもやっていないのです。やってから結局道路、立ち木とかそういうものを、危険でしょう、危険でしょうと言って数か月かけて言ったことによってそれをやっている。法律、これに関してはどういうふうに、当町としてはどういうふうに考えているのかお伺いしたいのです。やっていないことが、約束事です。

あと、30年後という話ありました。これはさっき同僚議員が一番最初に質問した中で、ほかの町村でやっていること、再利用をしていることに関しては、あまりうちでは口出せないのかなというふう
に思うのですけれども、この中間貯蔵に関しては、国、県、当町との約束事という中にそこが入って
いるのです。というのは、県も関わってきたので、県外に30年です。30年後に持っていく。法制化し
ます。僕もあの時に言わせてもらったのは、契約書なりなんなりそういう文面で残してほしい。だけ
れども、法制化します。法律は裏切りませんみたいなことを言っていました。だけれども、同僚議員
の言うとおりに、法律をころころ変えられるのは国なのです。だから、協定書はどれだけ大事になるか
ということが今本当に重要なことで、後からも出てきますけれども、令和4年に目標であれ、戻る方
々が出てきたときに、万が一これ町長、令和4年という任期が、次の選挙で当選するとすれば任期
中かもしれないですけれども、代わるときにまた違うでしょうと。双葉町でもそういう公共事業に使
ってもらわなくてはしょうがないよという話になってくると思うのです。それで、県自体がもう当て
にならないと。内堀知事は、30年後には全部県外に処分場とかそういうのをやりますよと。そうした
ものが、もう公共事業で実際には福島県内で使われている。これは、規則上どういうふうな規則をつ
くったのか、県もおかしいと思うのですけれども、町長、そこら辺に関してどういうふうにお考えな
のか。本当にこれ町との賠償とか補償にもちょっと関わってきてしまいますけれども、約束事を守ら
ないのであれば、輸送はちょっとストップするべきだと思うのです。そのためのパイロット搬入だ
と思うので、いろんな交渉の基になるものなので、ここはちょっとしっかりしてもらわないと、国は全
然守っていません。

あと、中間貯蔵、安全委員会に私議員として委員会に行っていますが、その中でも都合の悪いこと
は答えないのです。町に来たときも環境省はそうではないですか。都合の悪いことはお答えしない。
それで、僕よく言うのですけれども、この前の答えていないことを次答えると言ったので、それから
お聞きしたいのですけれどもというのと、とぼけてしまうのです。それはどうなのかなと思うのですけ
れども、ここら辺で双葉町としてしっかり環境省との関係を築かないと、このままずるずる、ずるず
る30年間いってしまうのかなと思うのですけれども、そこら辺町長、どういうふうにお考えなのか。
今後の姿勢に関しても環境省に対してもお答えをお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

まず、協定の中で道路交通網の整備、これは安全安心のための整備をするというふうなことで、こ
れは十分町としても環境省のほうには強く申し入れをしておりましたし、議員ご指摘のようなことも
確かにあったように記憶しております。そういったことを改善させる意味でも、先ほど施政方針の中
で申し上げたようなことがやられておるといふふうに判断しております。中間貯蔵施設、30年中間貯
蔵施設ということで、30年以内に県外搬出、これは約束であり、法律で定めております。ただ、議員
ご指摘のとおり、法律は変えることが可能だと。変えることが可能だったら、では町として確実にそ

のことを履行させるための取組はということかということだと思います。これは、議会の皆さんにも承認していただきましたけれども、中間貯蔵施設用地の約4分の1、25%が町有地であります。その町有地について、原則地上権契約設定ということで、これはまさに契約で、地上権設定ということで、30年以内に国が県外搬出という約束を守らなければ契約はしないというふうなことになりますから、当然守らないわけにはいかないというふうな、ある意味二重の担保になっているというふうを考えております。

再生利用につきましては、このことは、県外搬出という約束ですから、それはまさに県内で利用するということに対してというふうな考えは理解できます。ただ、この再生利用については、先ほども議員の一般質問の中で答えさせておりますが、地元の理解を得た上で限定的に行うことと、当然飯館村、南相馬市、両自治体は、そういうふうな理解を得てやっているのだというふうに捉えております。そういったことで、理解がない中でやるということは、当然あり得ませんから、地元の理解がない中でそういったことはあり得ないと、そういうふうに思っています。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） ご答弁ありがとうございます。1つ目のこの交通網に関しては、約束を守っていないのであれば、期限を決めてもう一回協定書を取っていただきたい。でないこの万が一、帰還だけではなくて、今現在ではお墓参りとか本当に自分のうちに行ったりとか、家を解体するために行っている方々が事故に遭ったときに、これは町にも責任が出てくると私は思います。それで、輸送路に関しても、あれだけ多くの車があれば、安定的にもうちょっと考えてもらわないと、当町だけではないのです。行くまでの道筋の中でも非常に大変なのです。前に中間貯蔵の委員会のほうでは言わせてもらいましたが、国道288号線片側通行がかなり多い。カーブを立ち上がったときに、車が止まっていて事故に遭ったり何とかというのがいろいろあるでしょうという話をしていました。その中で、お答えは、そのために事故がないようにやる工事ですよという話ですけども、今頃ですかという話なのです。今頃やっているのはおかしいでしょう。あなたたちが言ったことは違うでしょうという話なのです。

あと、先ほどの再利用とあります。何のために県が入ったのか。福島県外に30年以内、地元自治体云々の前に、国、県、当町で約束事というのは、30年後に県も入って、県外に出させます。出しますという約束です。双葉町と国との直接的な約束事ではないです。県も入っているのです。だから、先ほど僕言いました。内堀知事はうそつきです。条例でも何でも変えてしまうのでしょうか、結局は。自分の言ったことをできない知事だなと。30年以内に県外ですよ。それは国、当町も関係あるのですから。それを条件に県外にということで、当町は中間貯蔵もパイロット搬入も受けているはずなのです、町長は。その時点で、ほかの自治体のことではなくて、結局はそうしたら南相馬市や飯館村の行政の方云々の前に、知事はその行政に指導できなかつた。それを条件に当町は中間貯蔵を受けた。だけれども、その上の県知事は、それを許してしまったということになりませんか。県と国と当町の隣の犬

熊もありますけれども、その中で協定の中で30年後というのをうたわれているのに、法制化しました。だけれども、協定書の中の事項には反していると僕は思います。ということは、中間貯蔵もではほかの県で最初からやったらいいのではないですかという話になるではないですか。普通に考えれば、公共事業で使ったら30年後には出せません。公共施設というのは、多分50年、60年使えますから。学校でも何でもそうですけれども、その時点で協定書はもう協定違反です。だから、そういうのも、知事にも町長お会いするのでしょうかから、ちゃんときちんと言っていたきたいのです。言ってもらわないと、何か学校施設の夏休み中に全部出したい、汚染土壌を。それまだいまだに終わっていませんから。あれから何年たちました。あの子供たちの学校施設、福島県内の学校施設の汚染土壌を埋めているものをそんなところであてできないでしょうと。これは双葉町が泣かなければならない。分かりました。それは僕も賛成です。本当にできるのかなと思ったら、もう数年たっていますけれども、まだ終わっていないですから。そういうのは、協定書がなければ約束を随分破られてでも、何で当町だけがそういう思いをしなくてはいけないのかというのが僕の思いです。しかも、町民グラウンド、中間貯蔵の地域内に入っているのです、使うことはないでしょうけれども、あの当時とすれば、将来的なことを考えれば、あそこは残して使いたいなという部分でもあったわけです。だから、それに関して町長、本当にどういふふうに進めていくのか、ちょっとこれ30年以内ということ自体の協定は、もう違反されていると思うのですけれども、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

まず、協定書の遵守というのは、これは当然のことです。そういったことを守ってもらわなくてはならないと。その協定書に関しては、我々は常々3者協定を取り結んでおりますから、そういったことは常に国、県に関しまして、大熊町とともにそういうふうなことを強く話しております。30年以内に県外搬出、これは間違いなくやってもらわなくてはならないし、先ほどの答弁でも申し上げましたとおり、そのために町有地の地上権という契約を取っているわけです。そういったことによって、これは例として出して適切かどうか分かりませんが、沖縄なんかそういう地上権の設定のやり方をして頑張っているというのも事例としてあります。まさにそれに準ずるような町としての取組だというふうにご考えておりますので、例えば法制化で変わったとしても、これは町で契約をしなければ出さなくてはならないので、それは可能だと思っています。

協定違反の話ですけれども、そのことにつきましては、協定の中身をよく検討して、議員おっしゃるようなことがあるとするならば、しっかりと安全安心のために実施してもらうように、県に対してもしっかりと話をしていきたいと思っております。

あと、町民グラウンド、これは本来でしたら中間貯蔵施設に入らなければ除染をしてしっかりと安定的な放射線量に低減させられれば使うことができると。これは、今後環境省との交渉の中での……

（「小学校の」と言う人あり）

○町長（伊澤史朗君） 学校施設の除染土壌の搬入ということでありましたけれども、当然子供たちにそういうふうな健康被害があってはならないということで、町としても議会としてもそういうふうな判断をなされた。それがその判断をしたときから数年たっている今もまだ残っているということだと思います。これは、確かに緊急を要する事態であったというのは紛れもないことだと思っております。そういったことで、その対応をしっかりとした教育機関もありました。ですが、一方ではこれ私がお聞きした中では、その教育施設そのものの都合でその時に搬入を、搬出ですか、その土地からすれば。双葉町の教育施設、一般の施設だった町民グラウンドも含めてできなかったというのも伺っております。これに関しては、当然出さなくてはならないのですけれども、相手方の事情というのもあったやに聞いております。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） 2番の双葉町の財政について。双葉町の財政については、5年後、10年後は心配だと思いますが、今後の一般財源の確保や行政施設維持費など様々な問題があると思います。今後の財政についての町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、町の財政について。町の今後の財政に対する考えについてのおただしですが、議員ご指摘のとおり、今後の一般財源の確保、公共施設の維持運営費等については、問題意識を強く抱えているところであり、それら課題に対して一つ一つ着実に取り組んでいく必要があります。

まず、一般財源の確保につきましては、現在実施している特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除に向けた復旧・復興事業、町民の皆さんの安心安全のための帰還環境整備事業の事業規模や、そのニーズをいま一度精査確認を行い、真に必要な復旧・復興事業や生活再建支援事業を最優先に実施することとし、それら事業を実施するための国庫県補助金の確保はもとより、町が設置している特定目的基金の積極的かつ柔軟な活用により、一般財源の抑制を図ってまいりたいと考えております。

また、公共施設に関しましては、歴史民俗資料館など8つの公共施設については、令和2年度に原状回復に要する費用を算出する調査を行い、その調査結果を踏まえ、議会のご意見も伺いながら、避難指示解除後の施設の利用や処分に係る結論を早急に出すことにより、今年の夏頃に開所する双葉町産業交流センターなどの新規施設も含めた公共施設総合管理計画や個別施設管理計画の作成につなげ、後年度見込まれる維持運営経費を把握し、計画的かつ効率的な施設運営を図ってまいりたいと考えております。

町としましては、そうした取組などを確実に実施し、5年後、10年後の財政状況を見据え、魅力ある復興まちづくりに努めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） これに関しては、ちょっとあれなのですけれども、今双葉町に本社がある会

社も、他町村に事務所を持つと、そちらのほうに税金取られて、双葉に全額が入らないと。こういう状況を国に要望するべきだと私は思っています。なぜかという、この双葉町に戻ってきてもらって、結局本社がないとなかなかこの税金というのは見えてこない。それで、将来的に町を活性化させるためには何が必要かといったら、やっぱり一般財源だと私は思っています。その一般財源を確保できないままに公共施設等々を建てていくと、維持管理費で町は駄目になっていく方向性になっていくと思います。今いろんなものを本当に建てよう何しようといろんなものがありますけれども、その前に、それに耐え得る一般財源を確保しないと、町政自体がもう非常に今現時点でも厳しいですよ。基金等々を集めれば、すごい多分基金はあると思います。では、財政調整基金はといったときに、町長今どのくらいありますか。金額は30億円とか多分そのくらいだと思いますけれども、それで普通の町民の方が思うのは、数百億円の目的基金がある。だけれども、本当に使えるのは財政調整基金です。それが基準になってくる中で、30億円足らずの財政調整基金では、町は今後やっていけないと思います。この町復興を考えたときに、この一般財源の確保、5年後、10年後、国、県に要は補助金等々だけでは、町運営がやっていけなくなるというふうに私は感じております。ある国会議員の先生とお話をするチャンスがありました。その時に言ったのは、オリンピックまでだろうな。オリンピックまでが大体あれだ、後は先延ばしにしてどんどんやっていく。だから、多分中間貯蔵のあれも今年度中に何とかやっているよという世界に発信したいだけだと思うのです。だから、一般財源の確保をどういうふうにするかというのは、やっぱり先が長いのは若い経営者です。若い力をどういうふうに利活用するか。これは、外から入れるのも大企業だけではない。大企業はむしろだけです。本当にやる気のあるものづくり、本当にそこで本社を置いて経営するような、そういう施策を僕はぜひやっていただきたい。今の町でやっている公共施設等々よりも、そちらのほうは私は大事だと思っておりますけれども、町長は、例えばこの財政について5年後、10年後、本当はもっと細かくやらなくてはならないと思うのですけれども、どんなプランをお持ちなのかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

一般財源の確保、これは双葉町、当町だけではなくて、どの自治体も非常にこれ大変な課題だと思っております。当然先ほど議員おっしゃったように、一般財源の中で自由に町として用途目的を限定することなく使えるというのは、財政調整基金だというのは十分理解しております。そういった意味で、町である基金そのものが全部自由に使えるかということ、これ自由に使えるわけではない特定目的基金というものもありますし、ただ財政調整基金を積むということは、財政力指数が向上すると、そういうことにも関連してきます。財政力指数、いわゆる健全財政、交付税の不交付団体になっていくというふうなことになります。財政が健全化になれば。そうしますと、あえて固有の名前は言っておりませんが、交付税の不交付団体になってしまうということが、またもろ刃の剣になるだろうと。今我々は交付税を国から頂いていろいろな事業を展開しているわけです。財調を積むことができ

ないかという、今の町の現状では積むことは可能なのです。ただ、そういうふうな状況を考えたときに、どういうふうな利用の仕方、財政の運営の仕方をしていけばいいかということを考えて取り組んでいるということでもあります。議員ご指摘のとおり、工業団地、産業団地に本社機能のある、いわゆる企業が来てくれることが一番一般財源が増える原因にもなりますし、そういうふうなことの取組は、今後ともやっていかななくてはならないと思っております。そういったことを今後町としてしっかりと捉えてやっていきたいと思えます。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） 町長、不交付団体というのは、僕は理想だと思えます。ぜひ双葉町は不交付団体になっていただきたいと思えます。それは何でかという、交付団体は、やっぱり国、県には何も言えないのです。言うことを聞かなくてはならないのです。交付してもらって面倒を見てもらっている。だから、不交付団体であれば、そういうときに自分たちの力があれば、行政としては、住んでいる町民も皆さんも、もっともっと国に言えるような状況とかそういうのを僕はつくるべきだと思っております。時間の関係上、今回答弁頂きたいのですけれども、次に移らせていただきます。

3番、賠償・補償について。定例会のたびに質問していますが、双葉町の補償、賠償は、加害者側の一方的な考え方で、現在行われていない状況ですが、行政としての考え方は、町民の生命と財産を守ることが大義だと思えます。国、東京電力に要望だけでいいのかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番、賠償・補償について。行政として町民の生命と財産を守ることが大義だと思うが、国、東京電力に要望だけでいいのかとのおただしですが、町民の生命と財産を守ることが、町として当然のことと考えており、そのためにも長期にわたる避難生活を余儀なくされている町民の皆様が、一刻も早く生活再建を果たすことができるよう、今後も関係省庁、東京電力に対しては、町民の皆様の現状把握に努め、被害実態に即した賠償を行うよう継続して求め続けていくことが重要だと考えております。その上で、要望だけにとどまらず、関係機関との協議を進めることも重要だと認識しており、昨年10月には町担当課職員が原子力損害賠償紛争審査会の事務局となっている文部科学省原子力損害賠償対策室を訪問し、ほかの避難地域と比べたときの当町の特殊な事情や町民の被害実態についてご理解いただけるよう、町民の現状を訴えるなど、長期にわたる避難生活により被害が継続していることについて、原子力損害賠償紛争審査会においてご審議いただけるよう協議を行うなど、町政の緊密化を図っております。

今後も町民の皆様の被害実態に即した賠償、具体的な生活再建支援策の充実について、粘り強く関係省庁、東京電力に求め続けてまいります。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） 施政方針で昨日おっしゃったこと、2点ほどちょっと気になるところが、「避難の長期化によって町民の皆様の健康、仕事、暮らしなど様々な面で多くの課題が山積みしているの

も事実です」と。この後は、後で使わせてもらうのであれですけれども、あと、最後のほうに、「私たちが不安なく避難生活を送るために必要な施策として」と、いろんな面が書いてあったのです。これはまだ使いたいのですけれども、その中で、不安なくというのはどういうことなのか。今当町で、あまり言いたくないことなのですけれども、実際生活保護者何件ありますか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問に健康福祉課長にご説明させます。

○議長（佐々木清一君） 船来丈夫健康福祉課長。

○健康福祉課長（船来丈夫君） 菅野議員のご質問についてご説明申し上げます。

世帯ははっきりしていませんが、今10名ほど該当者がおります。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） 申請者も聞きたかったのですけれども、これ再々質問で終わりなので、実際避難生活続いているのです。避難生活続いて、鬱病等々の病気になったりなんかいろいろあるわけで、働けない状況あって、避難生活も終わっていないのに、その状況の中で、こういう実情というのは、実際国は分かっているのか。先月、双葉郡の町村議会議員研修会がありました。そこにはほかの町村長とか副町長等も来ていたのですけれども、うちの町長、副町長は公務があつて多分来れなかったと思うのですけれども、その中で、国の内閣府の方が講師でした。この人すごいなと思ったのが、1時間話を聞かせてもらって、この原子力災害に対しての責任は、国と東京電力にあります。だけれども、それは適切に賠償させていただいています。国の内閣府の方々が適切に賠償させてもらっているという考えなのです。国はそういう考えなのです。復興庁、環境省、いろいろ関わる省庁があつて、その中でまとめているのは内閣府の人です。あれ事務次官か何かの方なのですけれども、岡本さんという方が言ったことで、それで一番最初に僕手を挙げて質問させてもらいました。「その基準を教えてください」と言ったら何も答えられませんでした。非常に国はそういう在り方だということを、町長、ちょっと胸に留めて、もうちょっと強い、避難生活で生活保護者が出るというのは、非常になかなかなものだと思います。例えば月10万円がちゃんと続いていれば、年間で120万円だとすると生活保護を申請できないのです。これ以上の中身を今ここで言うてしまうと非常にまずいことにもなるような、当町で面倒見ているわけではないので、そこも含めて国との交渉、東電との交渉をより強く進めていただきたいと思います。これは要望です。

それでは、4番の双葉町の復興についてに入ります。令和4年に特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除を目標に進んでいますが、放射線レベルの問題や福島第一原子力発電所の収束問題がある中で、目標とはいえ、令和4年とした根拠をお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 4番、双葉町の復興について。放射能レベルの問題や福島第一原子力発電所

の収束問題がある中で、特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除の目標を令和4年とした根拠についてのおただしですが、早くふるさとに戻りたいという町民の皆様の切実な声を踏まえ、可能な限り早期に復興を果たすことという強い決意の下、福島復興再生特別措置法第17条の2の規定により作成しました、双葉町特定復興再生拠点区域復興再生計画の認定を平成29年9月に受けたことにより、おおむね5年以内に避難指示解除を目指すべく、令和4年を目標としております。

なお、特定復興再生拠点区域の避難指示解除を目指すためには、放射線量のさらなる低減化を図る必要があります、特定復興再生拠点区域内の除染を進めていくとともに、帰還に向けた放射線に対する健康不安対策を行ってまいります。

また、福島第一原子力発電所の廃炉の取組については、町の復興及び町民帰還に支障を来すことがないように、中長期ロードマップに基づき、安全かつ着実な作業を実施するために、廃炉に携わる技術者の人材育成による作業技術の向上を図るよう、引き続き国及び東京電力には強く求めています。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） この令和4年の根拠というのを僕は今答えているのかなというのがあって、先日ちょっと耳に挟んだのですけれども、チェルノブイリは、事故から15日だか10日の日にちを基準にして、入れない区域とかいろいろやっているみたいなのです。これも数十年たっています。東京電力というか、我々双葉町だけの話をすれば、双葉町は15日程度の被曝線量というのはどのくらいだったのか。ましてや令和4年、目標ではそれを掲げているということは、そこに住む人たちが出てくるわけです。本当に影響ないのか。

それと、もう一つは収束です。町長、随分前にも言ったように、収束問題とその低減の問題を一緒にすると言われても、それを一緒にしないと、帰るという選択の中で、皆さんがよくアンケート取って答えられないというのはそこではないですか。だって、本当に安全なのかといったときに、全協等で環境省の方とか国の方来たときに、では先に住んでくださいと言うと絶対に駄目だと言うではないですか。県にも県庁の出先機関持ってきてください、駄目だと言うじゃないですか。県も国も根拠がないです。原因者の東京電力でさえ双葉町には寮も何もないのですよ。双葉町の特殊性というのは、今からも拠点に関しても、原子力発電所から5キロ圏内ですよ。もともと5キロ圏内、10キロ圏内、15キロ圏内、20キロ圏内はどうなのかなというのがありますけれども、最初によく言う、すぐ避難させられた双葉町というのは5キロ圏内にそういう拠点とか全部あるのです。隣の町のことを言うとおちよとおかしくなってしまうかもしれませんが、今拠点にしている場所が5キロどころではないです。隣の町にある事故を起こした原子力発電所が一番近いのは、町として近い、拠点にするのが近いのは双葉町なのです。だから、隣町とはいえ、被害はどうなのかなと。これから燃料デブリは取りますよ、何しますよ。その時に予想とか云々、海へ船で運ぶのでしょうけれども、そんなことを考えたときに、では令和4年に住めるようになりましてよ、一番住める目標です。それが達成できたとしたら、その時にデブリ出たときどうしますかという話なのです。まだ危険ですよ、避難してくださいというわけ

にはいかないではないですか。だから、この令和4年というのは、多分国、環境省等々が来ていると思いますけれども、その根拠、完全に安全だという根拠です。放射能のレベルが下がっているだけの問題ではなく、例えばそこに住めば山も使いますけれども、その区域外に行くこともあるでしょう。近くに行くことも。その区域内にもそれなりの線量のところもありますから。その絶対安全だという根拠をちょっと簡潔に、時間もないので、次が僕一番大事なので、お願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

まず、原子力発電所の事故の収束についてというおたまだだと思います。このことにつきましては、いろいろな考え方があろうかと思えます。当然令和4年春の特定復興再生拠点区域内の全域の避難指示解除を目標としてやっているわけですから、住民帰還が果たされる中で、放射線の影響が限りなくゼロに近いような取組というのは、町としてもやっていかななくてはなりませんし、発電所のその今のご指摘の部分、こちらに関しましては、前にもお話しさせていただいたと思うのですが、まずデブリの取り出しというのは、これ非常に今までやったことのない作業ですから、これは安全な上にも細心の注意を払ってやっていただかななくてはならないということで、ただ再臨界、いわゆる放射線が大気中に飛散、拡散する可能性についてということに関しては、ゼロとは言えません。ゼロとは言えませんけれども、限りなくゼロに近いような現状にあるというふうな、前原子力規制委員会の委員長のお話は伺っております。今の委員長にもそういうふうな話を伺っておりますので、そういった部分では専門家の人たちの考えとしては、いわゆる被曝とか放射線の飛散、拡散については、かなりのレベルで大丈夫だろうというふうなことでございます。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） とはいえ、東京電力だけではなく、原子力発電所の安全神話は、もう壊れております、町長。その方々は、申し訳ないのですけれども、それを言っても責任を取らない人ばかりです。ゼロなのです。1%でもその可能性があるのだったら、町民の生命、財産、守るのが行政の役目です。これは国の役目でもあります。国民の生命、財産。安倍総理も言っています。その中で、国が言おうが何が言おうが、やっぱり専門家はどうかのですか、ゼロですかと言ったときに、ゼロと答えられるのだったら、僕は責任も取ってもらえるのだったらいいのですけれども、そういう責任の取れない方々の言うことを、僕この9年間の避難生活でよくしみじみ分かっていることがあるのです。言うだけ言って責任取らないです。これは国の職員もそうです。政治家もそうですけれども。それで、当町町民の生命まで揺るがすような事態になるようなことがあるのであれば、これは考え直さなくてはならないと私は思います。それで、これはまた6月の議会でやらせていただきたいと思えます。

次の5番の高速道路料金免除、医療費免除等についてお伺いいたします。高速道路料金の免除や医療費免除の措置はいつまで続くのかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 5、高速道路料金免除、医療費免除等について。高速道路料金免除や医療費免除の措置はいつまで続くのかとのおたただしですが、高速道路免除措置については、去る2月4日、ネクスコ東日本より無料措置期間が令和3年3月31日まで延長されることが発表されたところですが、その後の措置については示されておらず、また医療費免除の措置についても同様に、終了時期については国から示されておりません。当町が、避難指示が解除され一定程度期間が進んだ地域とは違い、今回一部の区域で避難指示が解除されたとはいえ、帰還を伴わない解除であること、さらに中間貯蔵施設を苦渋の判断で受け入れているなど、双葉町が置かれている特殊性を国、関係省庁にしっかりと認識していただき、避難生活が続く限り高速道路料金免除、医療費免除等の支援措置が講じられるよう、町議会の皆様とも連携を図りながら、今後も国に強く要望を行っていきたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） これに関しては、高速道路をできれば長くやっていただきたい。特殊性というのもあります。この医療費のほうをちょっと深く僕は今日はやりたいなと思っていました。施政方針の中で、町長、これ施政方針間違っているのかなという部分が1つありまして、7ページ、「医療費についても一部負担金等の免除期間が1年延長になりました。今後も議会の皆様と連携を図りながら、引き続き国に強く要望を行ってまいります」、医療費免除のものは9月までです。9月までしか、半年しか延びていません。ただ、それは町としてその間に合わなかった部分で1年延びたというふうに僕は捉えています。それに関しては、町長、取りあえず皆さんそれ気になっているところなので、見ている方もいるので、1年なら1年ということをご答弁していただきたいと思います。

あと、もう一つなのですけれども、この避難に関してストレス、がん、鬱病、いろいろと病気を発症されている方がいます。それで、動かなくなって何だといって、2件ちょっと事例を挙げると、糖尿病が進んで、治療費毎月20万円ぐらいかかる。医療費がなくなってしまうと、これはうちのお父さん働いているのだけれども、今二十何万円で病院にも行けないという方もいます。そういうご相談も受けています。あと、皆さんも多分誰とは言わなくても内容を聞けば分かると思いますが、その方がんになりました。がんになって、今抗がん剤治療をしています。よくなっているみたいです。その方に関しては。実を言うと10回で3,000万円の抗がん剤を使ったそうです。これ本人から聞いていますので、間違いないと思います。その10回の抗がん剤で3,000万円ということはいい薬です。いい薬でよくなっていった。だけれども、これ医療費がなくなったら、これ3,000万円ではなくて高額医療のものというのは1回立替えなくてはならないわけです。8万円は負担になるのです。七、八万円が負担になって、ということは、1年間その金額を立替えられないと、その人はもうお金が払えなかったら亡くなるしかないのです。そういうようなことに双葉町民は、僕は追い込まれていると思います。

それで、町長も議員時代に広島に視察に行ったと思います。あの時に言っていたのは、今県も国もちゃんと言ってもらっていないのは、子供たちの甲状腺、これデータちゃんと本当なのかというのが

あります。相双地区は人少ない。全体で見たら本当にパーセンテージは小さい。そういう子たちはまだいます。それで、福島県は18歳までは医療費ただですけれども、それが発症が、結局は19、20歳、成人してから出たときにどうなりますか。五、六年後から広島では出ると言われたのです。だけれども、広島、長崎の原爆に係る被爆した方に関しては、医療費ただなのです。長崎もそうです。だから、医療自体がすごく最新で、医者も高い薬でも使ってもらえるように勧めてもらえるのです。福島全体としても、医師不足とかそういうがあるので、ぜひそこをちゃんとした被爆者手帳、年金までくれとは言わないです。被爆者手帳ができたときには、月3万円の年金と医療費ただと、またほかにずらずらずらとあるのですけれども、そのおかげで今長崎市、広島市は医療が、本当に医師不足とかそういうのが一切ないのです。ほぼない状況なので、そういう事例もあるので、ぜひこの医療に関しては、半年とか1年ではなくて、この関わった人に関しては、今広島でもまだ裁判やっているのです。いまだにやっているのです。被爆者手帳をもらうための裁判はやっているのです、ぜひこれは町として町民の生命、財産を守るためには、この被害に遭った方々に医療費、一生と言ってもいいぐらいだと思うのです。当町で言えば数千人ですから。当町は先進的にそこに取り組めば、逆に言えばほかの町村も助かるところもあるし、それができれば福島県内であっても、医療が発達すれば、福島は混んでいる東京とか仙台とかに行かなくても、そういうようなシステムが県内とか東北にもできるわけです。ましてや当町の町民が助かるようなシステムづくりをしていただいて、町民の病気に対する安全安心を専門家を含めて、安心をしてもらった避難生活、ましてやそれで帰還したいという人がもっと増えてくれるのであれば、僕はいいと思うのですけれども、町長、これに関しては1年、1年では本当に皆さん、1月、2月になると本当に電話が多くなってくるのです。だから、そこら辺どういうふうを考えているのかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員のご質問にお答えいたします。

まず、高速道路の無料化、医療費の減免、これは継続するのは当然だというふうに私も思っています。先ほど来答弁の中で使わせていただいておりますけれども、3月4日に一部避難指示解除をしましたが、住民が帰還を果たす避難指示解除ではないということ。まさに住民帰還が果たされていない中で、そういったような制度が運用されないということはあり得ない、そういうふうに思っています。そういったことで、他の自治体と状況が違うのだということは、常々国、関係省庁には申し上げております。そういったことで、当然前例事例といいますか、行政は、議員ご存じのとおり前例が大分尊重されますから、避難指示解除をして何年間という先行事例がありますから、そういったものは、常に今現在でも国に言っております。どここの町と具体的に言う必要はないですけれども、避難指示解除して何年間そういうふうな制度設計を運用しているのだから、うちの町は住民帰還が始まってからのカウントですからねということは申し上げています。そういった意味では、その部分は、ある程度担保できるのかなど。医療費の9月というふうな話ありましたけれども、今後も1年とは言わず、

さらに継続していくように取り組んでいきます。

ご指摘の健康被害の問題、放射線被曝による甲状腺の疾患、これはご存じのとおり低年齢層に早く感受線が高いということで、いろいろな障がい、症状が出るというのは、私も存じ上げております。ただ、当時広島のアＢＣＣ、放射線影響研究所だったと思いますけれども、あちらに伺ったときに、いわゆるデータが日本にはないと。ほとんど持っていかれてしまったというちょっと残念なことではありました。ただ、その中で聞いた中では、そういうふうな広島健康手帳の話だったり、これは放射線被曝ということを見ると、ではどのエリアまで、どこに住んでいた人たちまでその対応をするのかと。双葉町だけでということには、これは当然できないと思います。これ被曝を受けた人たち全てにそういうふうな対応をするべきだと思いますので、そういった中での少なくとも双葉地方町村会、双葉地方広域圏、そういった中での議論の提供をさせていただいて、双葉地方としてそういう取組が皆さんの理解を得ながらやっていきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 5番、菅野博紀君。

○5番（菅野博紀君） 再々質問、最後の質問になります。

前例主義、分かります。前例主義は、放射線に関する前例市は、僕は広島、長崎だと思っています。それでアＢＣＣ、まさしく私たちも町長が議員時代に伺っています。あそこは僕三、四回行っているのですが、その中で今二世の方の血を採って、それを保管してやっています。今僕たちは、実を言うと一世です。その関わりの中では一世です。それで、僕は実を言うと僕も父親が長崎被爆者なので、被爆者二世なのですけれども、二世になると何もないので、来てくれとかという負担が多いので、僕はあれだったのですけれども、二世の方までやっぱり血を採っていろんな研究とかいろいろあるみたいなのです。先ほど言ったとおりだと思うのです。だから、それまで影響あると言われているのであれば、やっぱりそれはもう他町村もいいのですけれども、なかなか大きくなると細かい動きができないわけではないですか。当町が先頭に立って、国とか厚生労働省等ととどんどんやっていって、後からそのやり方を教えるというやり方も僕はあるのではないのかなと思います。そういうのも一つの手かなと思います。ただ、広島の被爆者の方に、ここで何回か僕言っていると思うのですけれども、団体の事務局長に何回か言われたことがあります。それは、私たちは、どここの国にやられたよと。だけれども、福島の方々は、日本の国にやられたのだから、ちゃんと日本の国と戦わなくてはいけないでしょうということは言っていました。まだ私たちは外国です。だけれども、福島の方々は日本の国にやられた。東京電力にやられたのだよ。日本のこの発展をあれする東京の東京電力にやられたということは、僕は今でも覚えています。だから、ぜひそれに関しては、当町が先頭に立ってやるべきだと思います。そうしないと、こんなこと言ったら悪いのですけれども、やっぱり町民の生命、財産。生命は確実に守っていくべきだと思うので、それは当町が本当に先頭に立ってやっていただきたいなと思いますので、最後に一言、時間はないのですけれども、よろしく申し上げます。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

当町が先頭に立ってやると。これ当然今ご指摘あったように、行動をさせていただきたいと思えます。ただ、この国に対して我々いろいろな要求、要望をさせてもらっています。先ほどの議員の質問の中でも、賠償であったりそういったものの取組、なかなか効果があったとは言い難いのではないかとというようなご指摘ありました。そういったように、町単独でやるのが果たして効果があるのかどうかということも踏まえながら柔軟に、どちらが最善のやり方になるのかということも踏まえて、町も、さらには広域的に広げてやっていくというのも、両方いい部分を取りながら進めていきたいと思えます。

○5番（菅野博紀君） ありがとうございます。

○議長（佐々木清一君） 次の岩本君の持ち時間の1時間は、お昼までは切りますが、若干オーバーしても続けさせていただきます。

通告順位4番、議席番号7番、岩本久人君の一般質問を許可いたします。

7番、岩本久人君。

（7番 岩本久人君登壇）

○7番（岩本久人君） こんにちは。7番、岩本久人でございます。ただいま議長より一般質問の許可を頂きましたので、通告どおり3点について質問をさせていただきます。

まず、昨年10月の台風19号で被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

1点目ですけれども、河川の整備についてお伺いします。昨年10月の台風第19号及び豪雨災害により、県内各地では河川決壊などによる住宅の浸水被害など、甚大な被害をもたらしました。当町でも町の中心部を流れる前田川が増水し、橋梁の損壊や一部堤防からの越水が生じたとの報告がありました。そこで、現在の町内河川改修の状況と、今後の甚大な水害に備えての河川改修など、治水対策をお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 7番、岩本久人議員の質問にお答えいたします。

1、河川の整備について。現在の町内河川の改修状況及び今後の甚大な水害に備えての治水対策についてのおただしであります。初めに、町内河川の改修状況については、町内の主要河川は、福島県管理の前田川、中田川、戎川、根小屋川及び松迫川の5河川であり、総延長は約33キロメートルとなっております。県では、うち改修が必要な約26キロメートルの区間において計画的に改修を進め、現在約66%、17キロメートルの区間において改修を完了させております。県からは、未改修、暫定改修等の箇所については、避難指示解除等の状況を踏まえ、計画的な改修を検討していく旨の説明を受けております。

次に、今後の甚大な水害に備えての治水対策については、現在町内では福島県が令和2年度の完成

を目指し、前田川、中田川、戎川及び根小屋川において、東北地方太平洋沖地震により被災した堤防等の災害復旧工事を実施し、地震により地盤沈下した堤防のかさ上げ、被災箇所築堤、コンクリートブロック張りのなどにより堤防の強化、必要な堤防高を確保することとしており、町としても、河川の通水を阻害する河川内の支障木の除去、川底に堆積した土砂の撤去等の活水機能の維持向上のための取組等を県に要望しております。

最近の気象現象の変化による大雨に対応した治水対策は、今後の住民帰還に向けての安全安心の確保のために喫緊の課題であると認識しており、引き続き県と連携して総合的な治水対策に取り組んでまいります。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） ご答弁ありがとうございました。台風19号の後、町内の様子を見てまいったのですけれども、前田川の前田橋、橋脚の上の部分に瓦礫やごみなどがたまっておりました。恐らくもう橋桁すれすれに水が上がっていたのではないかなと。堤防を見ても、越水ぎりぎりまで水が増水した決壊判断すれすれの状況だったというふうに伺い、そういう状況が見られました。危険氾濫水利の状況にあったのではないかなというふうに思って、今後の前田川の決壊の恐れがあるという、そういう心配を見たところ思ったところなのですけれども、確かに今町長の答弁がありましたように、河川被害改修工事で改修率は進んでいるようには見えるのですけれども、前田川の両竹、浜野地区は、確かに護岸、樋管の改修工事が進められていて、川幅も広くて、立派に整備されていたのですけれども、中流のほうに来ると新山、前田地区に来ると河道も狭くなってしまっていて、堤防もえぐられているところも見受けられました。河道内には土砂堆積も至るところにありまして、上流に行けば行くほど樹木とか草木が生い茂って、川の流れをせき止めるような、そういう原因にもなってしまうのかなというふうに思っています。

その町内の前田川水系には、先ほど答弁にもありましたように、根小屋川、戎川、中田川、松迫川ありますけれども、若干これもちょっと見てきたのですけれども、かなり川幅が狭くなって、狭窄というのですか、草木も伸び放題で、やぶになっているところもありました。根小屋川、目迫地区とか新山地区、戎川も町西地区では護岸工事などもしておりましたけれども、まだまだ進捗率の割には土砂の堆積で川幅が狭くなっていて、危険な箇所というのは結構あるのです。やっぱりしっかりと調査をして、県のほうにも要望をしなければいけないところも結構あるというふうに見てきました。環境省は、原則河川の除染はしないという方針ではありますけれども、9年手つかずの状態、かなり河川自体がもう本当に荒れている状態で、今年の19号のような台風、大雨、豪雨が来ると、また同じような危険氾濫水位まで上がる危険性は十分あるなというふうに感じてきたわけなのですけれども、町としては、これから新たな復興まちづくりの中で、河川の整備というのも非常に安全安心のためには必要なことではないかなというふうに思っております。市街地や農地を守るという意味でも、防災減災、生活環境の整備保全の観点からも、まず増水を防ぐための対応、河道の堆積物の撤去や、あとは草木

です。樹木もかなり太く土手付近は伸びておりますので、そういったことをまず計画的に進めていただきたいなというふうに思っております。その辺のところの考えをお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員の再質問にお答えいたします。

まさに議員おっしゃるとおりだと思います。そういったことに関して、5つの河川、こちら震災から11日で丸9年、まさにもう10年目に入ったと。その中で手つかずの状態であるところもかなりあるのは確認しております。そういったこととして、町としてまずどういうふうにしたらいいかというのは、内部で今検討しております。そういったことで、議員ご指摘の河川のいろいろな土手の決壊であったり川底の土砂の堆積、そういったものが問題になってくるだろうというのは分かっておりますし、県のほうともしっかりと協議しながら、どういう対応ができるかというのを今後やっていきたいと思っております。当然町民の皆さんが戻っていただくのに防災に強い、災害に強いまちというのを目指しておりますから、そこもしっかりとやっていきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 私の自宅の真ん前が前田橋でありまして、前田川が流れていきますので、非常に心配でならないわけで。

もう一つ聞きたいことは、この拠点内というか、河川整備をされている状況だと思うのですが、要するに拠点外の帰還困難区域の河川改修はどうなるのかなど。これは、帰還困難区域の中、除染もまた進めておられませんので、なかなか難しいというふうには思うのですが、これやっばり至るところで台風19号の爪跡があるのです。石熊地区では橋梁が損壊したというようなところもありますし、山田地区でも越水したところがあります。私もちょっと見てきて、288号線の山神橋下流などは、あそこは本当にもう越水したような状況が見受けられました。備後内橋の上流なのですが、あそこは護岸の一部が壊されていて、堤防が結構深くえぐられている箇所がありました。そういった意味では、堤防が決壊すると農地まで入り込んだり、いろいろとその被害を拡大するというおそれもありますので、そこもやはりしっかりと河川の被害調査をすべきではないかなというふうに思っているのですが、これから拠点内もそうですけれども、拠点外も段階的に町長は除染、整備を拡大していくとおっしゃっているわけで、農地の再生、営農再開、いろんな意味で河川というのは重要な役割を果たすと思います。かんがい用水で水利対策等々もありますので、前田川も含めて、その前田川水系の河川についても、本当に目を配っていただきたいなというふうに思っていますので、そういった今後調査をしていただけるのかどうか。そして、それに対しての対応をいただけるのかどうか、お伺いしたいと思います。帰還困難区域の河川に関して。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 今ご指摘ありました特定復興再生拠点外の帰還困難区域、こちらに関しましては、我々そういうふうな対応についてちょっと知り得ているものはありませんが、県といろいろと

協議をさせていただいて、いわゆる拠点外の帰還困難区域の河川エリアに関してどういう対応ができるか、今後県と協議をさせていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 質問ではないのですけれども、今回の台風……

○議長（佐々木清一君） 質問でなければ次の質問に入ってください。3回終わりました。

○7番（岩本久人君） ちょっとお願いということで。分かりました。3回までですね。

では、2点目についてお伺いします。自然災害時の町としての対応についてお伺いします。昨年のもこの10月、台風第19号により県内の避難先にて双葉町民においても河川の氾濫による住宅床上床下浸水の被害に遭われた方がいらっしゃいます。そこで、台風第19号及び豪雨により被災された町民の方々の状況や安否をどのように確認されましたのか。また、災害時の町民への避難情報、安否確認や被災された後の支援など、町としてどのような対応ができるのかお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、自然災害時の町としての対応について。まず、台風第19号及び豪雨により被災された町民の方々の状況や安否確認をどのように確認したのかのおたただしですが、国、県など関係機関で収集された被害地域情報を基に、町に届けていただいている届出避難場所情報から該当する方を抽出し、電話での安否確認を行いました。そして、被災された方に対しまして罹災証明の発行状況や応急仮設住宅等の情報など、その時々で知り得た情報の提供をしております。

次に、災害時の町民への避難情報、安否情報についてのおたただしですが、避難情報については、避難先自治体での防災行政無線や広報車による周知、ホームページやエリアメールなどによる避難情報の提供や、多様なメディアによるアラートによる伝達などで行われているところです。また、安否確認については、町へ居住を再開してから町内で災害が発生した場合、指定緊急避難場所や指定避難所での避難情報を基に行うことを想定しております。

一方、避難している町民の方々の災害時の安否確認の実施については、全国各地に町民の皆さんが避難している状況の中、確認に課題はありますが、災害規模を踏まえ安否確認を進めていく考えです。

次に、被災後の支援を町としてどのように対応するかのおたただしですが、避難している町民の方が災害を受けた場合には、その避難先自治体で支援を受けることになります。なお、災害規模により災害救助法の適用になれば、国、県からの支援は受けられますが、応急的に必要な救助を行うことになります。また、一定規模の自然災害であれば、被災者生活再建支援法に基づく支援を受けることもできますので、その場合には町としても町民の方への周知に努めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 今回の台風19号で、まずいわき市に日頃からお世話になっているということで、町として業務支援、物資支援で職員を派遣されたことに対しまして敬意を表したいと思います。今回の台風19号のような大型台風の場合、今言ったように町民は広域的に避難されていますので、な

なかなかその被害状況とか安否を確認するのは、容易ではないかというふうに思うのですけれども、震災前でしたら職員がすぐ被害の状況を確認できたり、消防団からの情報なども得ることができたのでしようけれども、それもなかなか難しい状況なので、町長からも答弁を頂きましたけれども、どういうふうに被災地に町民が住んでいる方に素早くその情報を、素早い情報というのですか、素早く安否、避難、被害状況を確認できるかという、そういう作業が非常に難しいというふうには思うのですけれども、住民が避難している場所を把握しているのは町でございますから、やはりそういう被害があるおそれのあるエリアに住んでいる町民の皆様には、素早くその連絡をしていただいて、被災自治体とも連携を取りながら、どういう状況で今いるのかどうかということを瞬時に、電話で連絡するような形になると思うのですけれども、そういう対応がやはり町民に、町の対応として安心を感じていただけるのかなというふうに思いますので、そういう対応をしていただきたいというふうに思います。

それと、今回20世帯以上の町民の方が床上床下浸水、住宅被害に遭われたわけですが、浸水した後の後片づけ、そしていろんな泥出しとか、様々な知人、友人ボランティアの方が駆けつけてくれて、大変な思いをされたというふうに思うのですけれども、いまだに自宅を修復をしている方もいらっしゃいます。町ではそれぞれ激甚災害の自治体には寄附金を、見舞金や物資を送りましたけれども、町民の方にこういった対応ができなかったものなのかなという、今になってそういうふうと思うところがあるのですけれども、なかなかそこは我々避難をしている状況の中で難しい点はあると思うのですけれども、ほかの自治体でもやっているところもございますし、そういったことを、今後またこういった被害が起きないとも限りませんので、今後の対応として考える余地があるのかどうか。町としても双葉町被災者の見舞金支給に関する条例などもございますから、そういう対応ができないのかどうか、そこをちょっとお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員の再質問にお答えいたします。

まずは、国の法律であります被災者生活再建支援法、これの適用ということでやっていただくのが、まずルールとして当然のことだと思います。次に、今回の場合は、被災者生活再建支援法だと、半壊だとほとんど対応がなされないような制度設計でありましたけれども、今回は県独自に、福島県としてそういうふうなものの対応、被災者に対する支援の対応があったと思います。そういったことの取組、さらには町としてそういうふうな被災に遭われた方に対するお見舞いとか支援をする取組をしたらどうかというご指摘でございます。当然今後いろいろな災害とか、いろいろなそういうふうな不規則なトラブルというのは考えなくてはならないので、今後については、しっかりと検討していきたいと思います。これは、一番原理原則は公平公正ということで対応していくということが基準になりますので、そういったことも踏まえて今後検討していきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） ありがとうございます。検討するという事なので、お願いしたいと思いま

す。今、被災者生活再建支援法というのがありましたけれども、町でもホームページ等でそういった町民の方、被災された町民の方には発信をしているのですけれども、広報紙には「広報ふたば」には載せていなかったのですか。ホームページのほうで載っていたのですけれども、被災者生活再建支援法ではなく、各被災自治体では様々な支援をやっています。もちろん県の義援金、市の義援金だと、そういった配分、措置もしていますし、それぞれの自治体で災害見舞金制度、あるいは今自宅を直されている方に対しての応急修理費支援制度などもあります。その辺のところをやはり町民の方が把握しているのかどうかということもちょっと心配なわけです。ですから、そういった情報も被災された町民の方に周知してあげるといようなことも、やはり被災後の町の支援として重要なことではないかなというふうに思いますので、その辺のところもお願いしたいというふうに思います。災害は、いつどこで発生するかもしれませんので、これからも町民の一人一人の復興に目を配って、町民に寄り添う対応をしていただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問を伺います。3番目でありますけれども、町内の防犯、防災対策についてお伺いします。3月4日、双葉町避難指示解除準備区域及び双葉駅周辺の一部区域が解除されました。また、町内の特定復興再生拠点区域内の立入規制が緩和され、今後誰でも自由に立入りできるようになります。町では、防犯、防災対策として、24時間パトロール警備、防犯カメラの設置、街路灯、防犯灯の修理を実施しますが、自分たちの町は自分たちで守るという観点から、新たな組織として、町民を守り、町内をパトロールし、安全安心を担う組織を設置してはどうかと思いますが、町長の考えをお伺いします。よろしくお願ひします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番、町内の防犯、防災対策について。自分たちの町は自分たちで守るという観点から、新たな組織として、町民を守り、町内をパトロールし、安全安心を担う組織を設置してはどうかのおただしですが、3月4日からの立入規制の緩和区域の設定により、特定復興再生拠点区域内は、通行証なく立ち入ることができるものの、帰還困難区域ではあるので、長時間の滞在や宿泊はできないことになっています。そのため、警備会社による町内パトロール業務の実施や防犯カメラ等の設置、そして双葉町商工会管理の街路灯と町管理の防犯灯の修繕とその点灯により、防犯対策を講じているところです。

おただしの新たな組織の設置であります。町域の一部区域の避難指示解除はされたものの、いまだ多くの町民の方々が広域的に避難している状況ですので、町民の皆さん自身が、ボランティアのような形で町の防犯対策の下支えをしていただくことは、現時点では難しいと考えております。

なお、帰還困難区域がある他自治体の事例ですと、自治体で人材派遣会社や警備会社への委託や、直接雇用を併用して自治体内のパトロール業務を運営しているようです。そのため、当町では今年度まで町民の方々の一時立入支援業務の一環で、町民の方を臨時的任用職員として採用し、町内パトロール業務を行っていたところではありますが、特定復興再生拠点区域内での立入規制緩和の実施により、

この区域での24時間体制の防犯対策を講ずるため、新年度より警備会社による町内パトロールに集約強化してまいります。そして、JR常磐線の全線再開通や、国道6号の地下道の通行も可能となったことから、JR双葉町の東西自由通路や駅東の広場、そして国道6号の地下道等の巡回パトロールとその維持管理を、新たな組織ではなく、町で会計年度任用職員を今後採用して実施してまいります。

一方で、おただしの、町民を守り、町内をパトロールし、安全安心を担う組織として、震災前に防犯活動を推進しておりました双葉町防犯協会は、現在活動を休止しております。当協会は、小中高の学校や警察、そして行政区など関係機関のご協力を頂いて活動してきたものであります。

いずれにしましても、今後の町の防犯・防災対策としましては、町の復旧、復興状況や町民の皆様への帰還状況を見ながら、町民の皆様への安全、安心感を持っていただくための取組を引き続き検討してまいりたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 立入規制が緩和されて自由に立入りできるわけですけれども、先ほど申しましたように、自分たちの町は自分たちで守るといふ、町民だからこそ分かる町の地理的なこととか、顔見知りの町民の方など、異常がないかどうか巡回をして、それぞれ出会ったときにお互いに声をかけ合いながら、不審者がいないかどうかという巡回、見回ること、町民の方だからこそできるような取組というのが大切ではないかなというふうに思って質問したわけですが、先ほど町長が申しましたように、これまで一時帰宅者の支援業務ということで、臨時職員の方の青色パトロール隊の方々が町内を巡回をさせていただいて、一時帰宅の皆さんの安全安心を図っていたわけですが、今度はこの自由に誰でもが拠点内、あと両竹地区が避難指示解除ですか、自由に出入りできるわけです。双葉警察によると、町内での盗難犯、また侵入等の昨年の発生件数は、一昨年よりは減っているようではありますけれども、やっぱり共に50件以上あるという統計が出ております。民家だけでなく、町内では事業者の方たちも働いておりますので、町内の事務所とか、あとは資材置場、倉庫などから盗難を心配される事業者の方もいると聞いております。そういう意味では、やはり他町でも避難指示解除の前にそういった見守り隊とかパトロール隊を町民の手で設置しているところもありました。当町でもできないことはないのではないかなというふうに思うわけですが、防犯防災をさらに強化する意味でも、やはり警察の手、消防、あとは警備保障、24時間体制はありますけれども、日中の出入りも結構多いものですから、やはり町民の手で、そういった警察、消防、警備会社と連携したパトロール組織、見守り隊、見守り組織が必要ではないかなというふうに思っているのですが、町長、ちょっと考えをもう一度お聞かせ願いたいのですが。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員の再質問にお答えいたします。

先ほど答弁で申し上げたものも重複しておりますけれども、自分たちの町は自分たちで守るといふのは、これ全くそのとおりではあります。先ほど申し上げましたように、非常に現在42の都道府県、

300以上の市区町村に避難をしている現状だということで、町民の皆さんが今全国に散らばっているということで、厳しいということでございます。それが状況が変われば、当然議員ご指摘のような状況も考えることは可能だと思っておりますが、今現在、町としては、令和4年春頃に特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除を目標として取り組んでいるところであり、その際には、役場機能の本体自体を双葉町に戻す予定としております。

町としましては、繰り返しになりますが、令和2年度には会計年度任用職員を採用して、JR双葉駅の東西自由通路や駅東の広場、そして国道6号の地下道等の巡回パトロール等、その維持管理をしております。

なお、令和4年春頃に特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除がなされ、役場機能の本体自体が町に戻ることにになれば、役場自体で町の状況に目が届くことになり、その役割を果たすべく、引き続き防犯、防災対策への取組を進めてまいります。

一方で、帰還される町民の方々による自主的な防災組織づくりにつきましては、町としても支援してまいりたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 町民による見守り、パトロールというのは、防犯もそうですけれども、防犯だけでなく、先ほど質問した防災という面でも、河川の水害等々が起こった場合、町内を巡回して河川の状況など見回ることもできますから、そういった危険箇所がないかどうかということも迅速に対応できるというふうに思いますので、今後ご検討をお願いしまして、質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（佐々木清一君） ここで休議します。

休憩 午前11時49分

再開 午後 1時00分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

通告順位5番、議席番号4番、高萩文孝君の一般質問を許可いたします。

4番、高萩文孝君。

（4番 高萩文孝君登壇）

○4番（高萩文孝君） 議席番号4番、通告順位5番、高萩文孝。今ほど議長の一般質問の許可を得ましたので、これから通告書に基づき質問させていただきます。

1、安全安心なまちづくりについて。3月4日に初めての避難指示準備区域の解除と、特定復興再生拠点区域内の立入規制緩和が実現し、拠点内のバリケードが撤去されることになりました。町内に立入りやすい環境をつくることは、復興事業が加速するとともに、町民にとっても町のイメージが湧きやすくなり、帰還が進みやすくなると思いますが、防犯面での不安があります。

また、現在、双葉町内には多数の環境省の輸送車両が通行していますが、今後はより一層の安全な通行が必要になると考えます。立入規制緩和後の安心安全なまちづくりについて、町の対応策や考え方をお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 4番、高萩文孝議員の質問にお答えいたします。

1、安全安心なまちづくりについて。立入規制緩和後の安心安全なまちづくりについて、町の対応策や考え方についてのおたただしですが、特定復興再生拠点区域全域の立入規制の緩和区域の設定後は、警備会社による町内パトロール業務の実施や防犯カメラ等の設置、そして双葉町商工会管理の街路灯と町管理の防犯灯の修繕、点灯により引き続き防犯対策を講じてまいります。特に町内パトロール業務については、次年度より班体制を増やして、今回の避難指示が解除された区域や特定復興再生拠点区域内でまだ解体していない家屋を戸別に訪問して、異常がないかを確認する作業を盛り込みたいと考えております。さらには、JR双葉駅の東西自由通路の駅東の広場、そして国道6号の地下道等の巡回パトロールなどを、町で採用する会計年度任用職員で行うこととしております。また、立入規制の緩和区域である特定復興再生拠点区域と帰還困難区域の境に新たなバリケードを設置した上で、帰還困難区域へ立ち入ることができるバリケードを限定することで、帰還困難区域への立入りを制限する防犯対策を講じております。

一方で、環境省での町外からの中間貯蔵施設への搬入車両や、除染解体作業で発生した廃棄物を搬送する車両、そして県や町などが発注した工事車両など、多くの車両が町内で通行しております。環境省に対しては、歩行者への注意や一般車を優先した走行を改めて求めるとともに、搬入目標数量の達成にとらわれることなく、安全の確保を最優先に事業を実施するよう引き続き求めてまいります。

また、その通行ルートについても、環境省を含めた各事業者に対し、県や町などのほかの事業関連車両との通行が重複しないような形ですみ分けを要請しているところです。3月4日に特定復興再生拠点区域全域の立入規制の緩和はされましたが、今後防犯対策も含めて様々な問題が発生していくものと考えております。

町としましては、それらに1つずつ対処していき、令和4年春頃を目標とする特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除に向け、町民の方々が安心して帰還できる安全なまちづくりをしてまいりたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 休議します。

休憩 午後 1時05分

再開 午後 1時05分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 午前中も同僚議員からも同様の交通面、防犯面の質問もありました。復興を進めていく上では、やはり安全安心が大前提だと思いますので、町としても取組をしっかりと進めていただきたいと思います。

それでは、2番目の質問に入ります。双葉駅からの交通手段について。立入規制緩和や常磐線の全線開通後は、町民の一時帰宅もしやすくなる場所ですが、双葉駅からご自宅への移動手段が課題です。また、中野地区への交通手段も重要です。双葉駅からのバスの確保など、どのような対策が考えられるのかお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2、双葉駅からの交通手段について。町民の皆様の一時帰宅や中野地区への移動のための交通手段についてのおたただしですが、JR常磐線の全線営業再開をきっかけに、町民の皆様が一時帰宅を通じ、町内の復興がようやくスタートし始めた様子を御覧いただくことが重要と考えているとともに、中野地区への交通手段を確保することで、復興産業拠点や東日本大震災・原子力災害伝承館、産業交流センター等を生かした交流人口の拡大を図るべきであると考えております。そのため、双葉駅からのご自宅までの移動手段として、4月より国によって双葉駅からバスによる一時立入りが可能となるほか、双葉駅前に多くの皆様で共有してお使いいただく移動手段として、事前の会員登録と予約によって、手頃な価格で自動車を借りられるカーシェアリングサービスの誘致や、より気軽に利用できるコミュニティーサイクルを設置したいと考えております。

また、中野地区復興産業拠点での企業立地も本格化し、東日本大震災・原子力災害伝承館や産業交流センターの開業を7月と想定している中、特急が停車する双葉駅からの2次交通確保が、交流人口の拡大や自家用車依存脱却のまちづくりに資すると考えられることから、7月の開業に合わせ、シャトルバスの運行を開始したいと考えており、また、カーシェアリングやコミュニティーサイクルを用いて来訪することも考えられます。

それらを実現するべく、必要な経費を令和2年度当初予算案に計上させていただいております。このような交通手段を整えることにより、常磐線全線再開の効果を最大限発揮しつつ、町民の皆様の利便性を上げ、公共交通によって移動しやすいまちづくりを実現し、国道6号の渋滞緩和や二酸化炭素排出量やエネルギー消費量を削減し、環境に優しい便利なまちづくりを目指したいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 今ほどバスの運行の話がございました。利用するに当たっては、具体的にその料金とかどのように考えているのか。

あと、カーシェアリングの話もありましたので、その辺のサービスについて、具体的にどのように利用できるように考えているのか、説明をお願いしたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 高萩議員の再質問にお答えいたします。

バスの料金に関しましては、国による一時立入バスの利用については、町民限定で1週間前までに申し込む必要がありますが、無料で利用できます。双葉駅東口と中野地区を結ぶシャトルバスは、運営スキームは詳細を詰めているところではありますが、町を訪れた方や中野地区で就業されている方など、どなたでもご利用いただけるバスであり、利用料金徴収を想定しております。

なお、カーシェアリングにつきましては、復興推進課長のほうに説明させます。

○議長（佐々木清一君） 大浦富男復興推進課長。

○復興推進課長（大浦富男君） ただいまの高萩議員のご質問についてご説明いたします。

現在導入を検討しておりますカーシェアリングでございますが、こちらにつきましては、現在事業者の方のご提供によりまして、本来新年度のほうで予算も計上しておるところではあるのですが、3月14日のJR常磐線の全線開通ということに伴いまして、3月14日といいますから前日13日、明日からになります。駅前広場のほうに2台ほど、事業者の方々のご支援ということで、設置をさせていただく予定となっております。14日の開通に合わせてその2台、一応稼働するというような、試験運行というような流れになりますが、稼働する予定であります。

また、使用方法等につきましては、本日もしくは明日、町のホームページあるいはコミセン連絡所の職員のお手元のほうにも利用方法について周知したいと思います。

以上であります。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 今のほどバスの件、あとカーシェアリングの件、説明を受けましたが、少しでも利用される方の利便性と、当然お金の面でもちょっと気をつけていただいて、できる限り費用を下げさせていただいて対応していただけるかどうか、町長、ご答弁をお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 高萩議員の再々質問にお答えいたします。

今ご指摘の件につきまして、でき得る限り検討して配慮したいと思います。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） では次、3番目の質問に入らせていただきます。

2022年春頃の避難指示解除に向けたまちづくりについて。今後、町が目標とする2022年春頃の本格的な避難指示解除と居住開始に向けては、駅西の生活拠点の着実な整備が重要と思いますが、現在の検討状況や整備状況についてお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3、2022年春頃の避難指示解除に向けたまちづくりについて。町が目標とする2022年春頃の本格的な避難指示解除と居住開始に向けて、駅西の生活拠点の現在の検討状況や整備状況についてのおただしですが、2022年春頃を目標としている特定復興再生拠点区域全域の避難指示

解除に際し、特定復興再生拠点区域等のみでは、解除区域は町域の一部にすぎず、解除の見通しが立っていない区域が大多数を占めることになることから、元来お住まいだった場所への帰還に先立って、双葉町内への帰還が可能となる受け皿を整えるべく、双葉駅西側に新たな生活拠点を整備することとしています。新たな生活拠点の整備に当たっては、先行的に帰還を果たす町の新たな中心地としての位置づけを意識し、災害公営住宅などのほか、商業機能や町民の皆様の一時帰宅を支援したり、双葉町内の復興を実感していただくための一時宿泊機能などを確保したいと考えております。

また、今後双葉町は、元来町民であった方の帰還だけでなく、外部から新たに双葉町に関心を持っていただき、関わっていただくことが大変重要であると考えており、町民と新たに関わっていただける方が垣根なく溶け合って新たなスタートを切る、新たな双葉町民として町を育てていく持続的な在り方を模索したいと考えています。

そういった在り方を具現化するべく、単に公営住宅のみならず、まちづくりの在り方についてデザインをしていただくため、現在公募型プロポーザル方式により設計者の選定を行っており、令和2年度に設計を行い、令和3年度に建設、令和4年春頃の居住開始を目指しております。また、造成工事に関しては、皆様のご協力により用地の取得が大詰めを迎えており、昨年10月には関係者ご臨席の下、起工式を開催したところです。

いずれにしても、駅西の生活拠点は、復興のみならず、地方創生を果たす必要のある双葉町の未来を大きく左右する大変重要なまちづくりであると考えており、多くの関係者のご協力を得ながら、町を挙げて全力で取り組んでいく所存です。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 今ほど町長から答弁頂きましたけれども、商業機能という表現がありました。当然住むからにはそういう商業機能は重要だと思います。さらには、病院の話とか今答弁でなかったのですが、その辺どのように考えているか。具体的にその商業機能というのをどんな考えているのか、答弁できれば再質問でお願いしたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 高萩議員の再質問にお答えいたします。

商業機能についてであります。双葉駅西側地区は、町民の帰還の受け皿となるのに必要な商業機能の確保が必要であると考えております。2022年春頃の居住開始の時点で必要です。本来、商業施設は民間により整備及び運営されるべきものでありますが、特に居住開始当初は、不透明な見通しの中で、そのような投資に期待することは、現実的に厳しいことから、町が建物を整備し、出店者を募集し、運営する方式が比較的現実的であると考えています。ただし、町の持続的な在り方を模索する上では、いずれ民間中心による運営に切り替えることも重要と考えており、2022年春頃の在り方は、暫定的な整備方法とし、店舗兼住宅の整備も可能な分譲地の整備などによって、住民による事業再開等を支援してまいりたいと考えております。

さらに、診療所、診療施設に関してですが、これは議員もご存じだと思いますけれども、平成23年4月に県立大野病院、さらには双葉厚生病院の合併の取組がありました。平成23年4月に合併統合をして、新たな診療科目ということで厚生病院で再開をするわけでしたが、残念ながら3月11日の東日本大震災・原子力事故によりまして棚上げになっている状況です。このことにつきましては、大熊町と双葉町、両町関係ございますから、両町で県のほうにこの統合問題の話も、これは棚上げになっているだけで、当時そういうふうな約束があったということをしつかりと県のほうには話をさせていただいております。

ただ一方、当時のような統合が可能であるかどうか、さらには2次医療が関係するための施設として郡内にいろいろ整備されるということが、果たして今、医療人材の不足をしている状況の中で、適切な対応なのだろうかということを常々実は考えておりました。そういった中で、県立大野病院は、まだ再開して新しく建築をしてそんなに年数がたっていない病院施設です。そういったことから、これは皆さんのご理解を得ながら進めなくてはならないのですけれども、町の考えとしましては、県立大野病院に2次医療の完結をできるような医療の設備体制を整えるべきではなかろうかと。さらに、当町として医療施設がないのにそんなこと、何言っているのだというふうな、恐らくご指摘があらうかと思えます。そういった部分で、まず交通網の整備、いわゆるそういった救急医療、緊急医療に関して、議員の中らご指摘ありますように、ドクターヘリの運用も含めた取組というの、今現在検討しております。

さらに、では双葉町には何も医療施設ないのかというふうなことになるように、今現在、厚生病院の組織として厚生連という組織があります。これは、浜通りでは南相馬市の鹿島厚生病院、双葉厚生病院、これは休業中ですが、埴、白河、会津坂下、会津美里に厚生病院があります。その中で顧問広域会議というのがありまして、私も双葉厚生病院の地元自治体の首長として、一応顧問の一人として参加をしております。その会議の中で、厚生連のほうに、ぜひ双葉町が帰還をするような状況の時に、診療施設をお願いしたいというふうな要請をさせていただいております。その中で、厚生連の中で、前回の統合のような状況での診療科目は、今現在厚生連も医療人材が不足しているので厳しいと。しかしながら、双葉町との過去のいろいろなお世話になったいきさつもありますから、診療所に関しては、前向きな検討をしていただいておりますというふうに考えております。そういったことから、皆さんご心配の医療施設、診療施設に関しては、今現時点ではまだはっきり確約できるものではございませんけれども、私は大丈夫な施設になるのかなというふうに、診療施設ですけれども、そういったものが町内に設置できると思っております。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 今の商業施設、さらには病院のほう、町民の皆さん戻るに当たっては、本当に必要最小限というか、そういうことですので、ぜひともスピード感を持っていいものをつくっていただければいいかなと思います。

では、最後、4番目の質問に入ります。2022年春頃の避難指示解除に向けた教育環境の確保について。若い世代も含めたまちづくりを進めるためには、教育環境の整備も欠かせないと思います。先日、教育長からも学校再開に関して、学校の在り方に関する検討会を設置するというお考えが示されましたが、2022年春頃の教育環境の様子など、今後の教育の在り方に関わる現時点での教育長の具体的なイメージをお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 教育長、館下明夫君。

○教育長（館下明夫君） 議席番号4番、高萩文孝議員の質問にお答えいたします。

4番、2022年春頃の避難指示解除に向けた教育環境の確保について。2022年春頃の教育環境の様子など、今後の教育の在り方についてのおたただしですが、まちづくりを進めるに当たり、次世代を担う子育てから学校教育までの教育環境の確保については、重要課題であると認識しております。今、双葉町は、2018年12月に示された避難指示解除に関する考え方の中で、2022年春に向けた取組が計画されています。住む拠点での居住開始へ向けたインフラを含め、各種環境づくりを進めております。2022年春を目標とする特定復興再生拠点区域全域の解除がなされれば、双葉駅西側地区に整備する住宅地では、町民が戻り、新しい町民も転入し、それぞれの暮らしが始まるのが想定されます。それまでの準備期間において、丁寧に町民の皆様の意向調査を進めながら、教育環境の在り方を検討してまいります。

日々復興の状況が変化する中、柔軟に対応してまいりたいと考えておりますが、現在考えている教育行政ビジョンとしましては、学校教育環境と生涯学習の充実の2つであります。学校教育環境につきましては、2022年春の時点で、就学児童生徒を持つ町民の方々が町へ戻るという意向がある場合は、まずは隣接自治体の学校へ区域外就学ができる対応を考えます。そして、帰還人口の推移を見据えながら、魅力ある学校を構築するための、仮称ではございますが、「学校在り方検討委員会」なる組織を立ち上げ、安全安心を担保した上で丁寧に検討してまいります。

生涯学習においては、町へ戻られる町民の皆様の生涯にわたる豊かな学習活動とスポーツライフを支援するコミュニケーションの場づくり、拠点づくりも進めなければなりません。その構築のため、双葉町復興まちづくり計画推進会議を初め、関係機関との連携を図ってまいります。

また、福島県震災アーカイブ拠点施設、東日本大震災・原子力災害伝承館の利用を含め、生涯学習活動の充実のため、国、県とも協議を進めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 今ほど教育長の答弁、ありがとうございました。学校教育については、最初は、その区域外で受け入れていただくような形でやるということなのですが、その学校の在り方検討委員会、そちらのほうのスケジュールを具体的にもう進めないと、いろんな意味で遅れてしまうので、その辺のスケジュール感があつたら再質問という形でお願いしたいと思います。

あと、生涯学習の話なのですが、いろんな国、県、あと推進会議と連携されるというのですけれど

も、こちらもちよっと具体的に見えないので、そういう意味でも何かスケジュール感とか、今の段階でいいのですけれども、もしあったらお聞かせ願いたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 教育長、館下明夫君。

○教育長（館下明夫君） それでは、高萩議員の再質問にお答えいたします。

先ほど答弁の中にも申し上げましたが、2022年春頃ということは、私もターニングポイントと考えておりますが、その2年間の間の準備期間、具体的にどんなことを進めるのだというおたただしだと思っております。今現在、令和2年度に考えてございますが、既存の学校施設内の私物返却と、これは町備品ももちろんですけれども、備品の整理、片づけを実施する予定でございます。そして、学校施設を初め公共施設の復旧調査を実施してまいります。その上、先ほど申し上げました、仮称ではありますが、「学校在り方検討委員会」なる組織を、今現在のところは、先ほど申し上げました私物の取り出しを7、8月ぐらいをめどにというふうに考えておりますので、それが過ぎてからとなりますので、そのぐらいの時間を考えて立ち上げてまいりたい。そして、復旧調査の結果を踏まえながら丁寧に議論を重ねて、利用可否について方向性を示したいな、そんなふうに思います。

あともう一点、生涯学習についてであります。先ほど申しました公共施設の復旧調査、そういったものも勘案しまして、それでこの学校在り方検討委員会とプラスして、そういった公共施設も含めて、その辺の利用可否について進めていながら、その生涯学習施設として利用できないかどうか、そんなことを検討してまいりたいな、そんなふうに思っております。

○議長（佐々木清一君） 4番、高萩文孝君。

○4番（高萩文孝君） 今ほど、これから子供たちのためにいろいろ教育長やっていただかないとならないので、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

私の質問はこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（佐々木清一君） これで一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（佐々木清一君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

（午後 1時30分）

3 月 定 例 町 議 会

(第 3 号)

令和2年第1回双葉町議会定例会議事日程（第3号）

令和2年3月17日（火曜日）午前9時開議

開 議

- 日程第1 議案第4号 専決処分の承認について
専決第2号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第6号）
- 日程第2 議案第5号 令和2年度東日本大震災による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定について
- 日程第3 議案第6号 双葉町課設置条例の一部改正について
- 日程第4 議案第7号 双葉町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について
- 日程第5 議案第8号 双葉町職員定数条例の一部改正について
- 日程第6 議案第9号 双葉町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 日程第7 議案第10号 双葉町コミュニティーセンター条例の一部改正について
- 日程第8 議案第11号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正について
- 日程第9 議案第12号 町道路線の廃止について
- 日程第10 議案第13号 町道路線の認定について
- 日程第11 議案第14号 指定管理者の指定について
- 日程第12 議案第15号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第7号）
- 日程第13 議案第16号 令和元年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第14 議案第17号 令和元年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第4号）
- 日程第15 議案第18号 令和元年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第4号）
- 日程第16 議案第19号 令和元年度双葉町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 日程第17 議案第20号 令和2年度双葉町一般会計予算
- 日程第18 議案第21号 令和2年度双葉町国民健康保険特別会計予算
- 日程第19 議案第22号 令和2年度双葉町公有林整備事業特別会計予算
- 日程第20 議案第23号 令和2年度双葉町公共下水道事業特別会計予算
- 日程第21 議案第24号 令和2年度双葉町介護保険特別会計予算
- 日程第22 議案第25号 令和2年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第23 議案第26号 双葉町副町長の選任について

- 日程第24 請願審査報告
請願第 1号 福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出請願書
- 日程第25 発議第 1号 双葉町議会委員会条例の一部改正について
- 日程第26 発議第 2号 福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書案
- 日程第27 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件
- 日程第28 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件
- 日程第29 議員派遣の件
- 閉 会

○出席議員（8名）

1番	尾形彰宏君	2番	石田翼君
3番	羽山君子君	4番	高萩文孝君
5番	菅野博紀君	6番	清川泰弘君
7番	岩本久人君	8番	佐々木清一君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	金田勇君
教育長	館下明夫君
秘書広報課長	鈴木健一君
総務課長	平岩邦弘君
復興推進課長	大浦富男君
戸籍税務課長	高橋秀行君
産業課長兼 農業委員会 事務局局長兼 コミュニティ センター所長	志賀睦君
建設課長	猪狩浩君
住民生活課長	中野弘紀君
健康福祉課長兼 青年婦人会館長	舶来丈夫君
生活支援課長	朝田幸伸君
会計管理者	井戸川陽一君
教育総務課長	橋本仁君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	志賀公夫
書記	加村めぐみ

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） おはようございます。石川監査委員より欠席届がありましたので、ご報告申し上げます。

ただいまの出席議員は8名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

（午前 9時00分）

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

なお、日程第1、議案第4号から日程第22、議案第25号までは全員協議会で説明を受けていますので、申し添えます。

◎議案第4号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第1、議案第4号 専決処分の承認についてを議題とします。

質疑は説明書により、歳入から行います。

第15款県支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳入に入ります。

第10款教育費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第14款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第4号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第4号は原案のとおり可決されました。

◎議案第5号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第2、議案第5号 令和2年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第5号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第5号は原案のとおり可決されました。

◎議案第6号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第3、議案第6号 双葉町課設置条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第6号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

◎議案第7号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第4、議案第7号 双葉町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第7号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

◎議案第8号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第5、議案第8号 双葉町職員定数条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第8号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

◎議案第9号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第6、議案第9号 双葉町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第9号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

◎議案第10号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第7、議案第10号 双葉町コミュニティーセンター条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第10号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

◎議案第11号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第8、議案第11号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第11号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

◎議案第12号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第9、議案第12号 町道路線の廃止についてを議題とします。
直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第12号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

◎議案第13号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第10、議案第13号 町道路線の認定についてを議題とします。
直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第13号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

◎議案第14号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第11、議案第14号 指定管理者の指定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第14号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

◎議案第15号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第12、議案第15号 令和元年度双葉町一般会計補正予算（第7号）を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、説明書により歳入から行います。

第1款町税。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款地方譲与税。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款利子割交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款配当割交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第6款地方消費税交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第7款自動車取得税交付金。

（「なし」と言う人あり）

- 議長（佐々木清一君） 第8款環境性能割交付金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第10款地方交付税。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第14款国庫支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第15款県支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第16款財産収入。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第17款寄附金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第18款繰入金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第20款諸収入。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。12ページ。
第2款総務費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第3款民生費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第4款衛生費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第6款農林水産業費。16ページ。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第8款土木費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第9款消防費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第10款教育費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第11款災害復旧費。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第13款諸支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第14款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第15号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

◎議案第16号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第13、議案第16号 令和元年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、説明書により歳入から行います。

第3款国庫支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款県支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第2款保険給付費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款国民健康保険事業費納付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第16号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

◎議案第17号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第14、議案第17号 令和元年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算(第4号)を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、説明書により歳入から行います。

第3款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款諸収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。

第1款公共下水道事業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第17号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

◎議案第18号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第15、議案第18号 令和元年度双葉町介護保険特別会計補正予算(第4号)を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、説明書により歳入から行います。

第3款国庫支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款支払基金交付金

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款県支出金

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第8款繰入金

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。

第1款総務費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款保険給付費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第18号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

◎議案第19号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第16、議案第19号 令和元年度双葉町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、説明書により歳入から行います。

第3款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。

第2款後期高齢者医療広域連合納付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第19号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

◎議案第20号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第17、議案第20号 令和2年度双葉町一般会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、予算説明書で款ごとに歳入から行います。

3 ページから、第1款町税。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款地方譲与税。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款利子割交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款配当割交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款株式等譲渡所得割交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第6款法人事業税交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款地方消費税交付金

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第8款環境性能割交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第9款地方特例交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第10款地方交付税。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第11款交通安全対策特別交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第12款分担金及び負担金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第13款使用料及び手数料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第14款国庫支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第15款県支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第16款財産収入。14ページ。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第17款寄附金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第18款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第19款繰越金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第20款諸収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 19ページ、歳出に入ります。

第1款議会費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款総務費。

1番、尾形彰宏君。

○1番(尾形彰宏君) 総務費のところ、25ページの交際費、町長交際費というふうにあるのですが、今双葉町はこういうふうな過渡期で大変な時期だと思うので、どういうふうなことを想定されてこの予算を組まれたのか、お聞きできますでしょうか。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 尾形議員の質問にお答えいたします。

秘書広報課長から説明をさせます。

○議長(佐々木清一君) 鈴木秘書広報課長。

○秘書広報課長(鈴木健一君) ただいまの尾形議員の質問にご説明させていただきます。

町長交際費につきましては、これまでの前年に基づきまして積算をさせていただいております、新たな部分の追加分はございません。前年の例に倣って積算をさせていただきました。

以上でございます。

○議長(佐々木清一君) 答えにならない。執行部に申し上げますけれども、その内容を今質問されているので、前例に基づいてという答弁はないので、町長そこもう一回答弁し直していただきたいと思えます。

町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 改めて秘書広報課長に説明をさせます。

○議長(佐々木清一君) 鈴木秘書広報課長。

○秘書広報課長(鈴木健一君) ただいまの尾形議員の質問に再度ご説明させていただきますが、手元に積算資料がございませんので、後ほど説明をさせていただきたいと思えます。

(「議長、休議」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 暫時休議します。

休憩 午前 9時25分

再開 午前 9時26分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 尾形議員の質問にお答えいたします。

交際費につきましては、私、町長になる前は300万円でありましたけれども、200万円に減額をして、さらにその200万円の中身につきましておたがだしたと思っておりますが、各種支援団体等のお土産代などが含まれております。

○議長（佐々木清一君） 1番、尾形彰宏君。

○1番（尾形彰宏君） お答えありがとうございます。私も以前ということと言うと、300万円のときの状況というのはよく分からなかったのですが、それが減額されて200万円ということは、かなりそれなりに配慮された中身だと思います。すみません、どうもありがとうございました。

○議長（佐々木清一君） そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 52ページ、第3款民生費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 64ページ、第4款衛生費。ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款労働費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第6款農林水産業費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 74ページになります。第7款商工費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 77ページ、第8款土木費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 81ページになります。第9款消防費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 84ページ、第10款教育費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 97ページになります。第11款災害復旧費。

（「なし」と言う人あり）

- 議長（佐々木清一君） 第12款公債費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第13款諸支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第14款予備費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 全体的な質疑を許可します。質疑ありませんか。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。
これから討論を行います。討論ありませんか。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。
これより採決をいたします。
この採決は起立によって行います。
お諮りします。議案第20号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。
（起立全員）
- 議長（佐々木清一君） 起立全員です。
よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

◎議案第21号の質疑、討論、採決

- 議長（佐々木清一君） 日程第18、議案第21号 令和2年度双葉町国民健康保険特別会計予算を議題とします。
直ちに質疑に入ります。質疑は、予算説明書で款ごとに歳入から行います。3ページです。
第1款国民健康保険税。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第2款使用料及び手数料。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第3款国庫支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第4款県支出金。
（「なし」と言う人あり）

- 議長（佐々木清一君） 第5款財産収入。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第6款繰入金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第7款繰越金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第8款諸収入。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。8ページになります。
第1款総務費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 10ページ、第2款保険給付費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 13ページ、第3款国民健康保険事業費納付金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第4款財政安定化基金拠出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第5款保健事業費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第6款基金積立金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第7款諸支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第8款予備費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。
これから討論を行います。討論ありませんか。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第21号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

◎議案第22号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第19、議案第22号 令和2年度双葉町公有林整備事業特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、予算説明書で款ごとに歳入から行います。3ページです。

第1款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。

第1款農林水産業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款公債費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第22号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

◎議案第23号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第20、議案第23号 令和2年度双葉町公共下水道事業特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、予算説明書で款ごとに歳入から行います。3ページです。

第1款分担金及び負担金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款使用料及び手数料。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款繰越金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款諸収入。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款公共下水道事業費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款公債費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第23号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

◎議案第24号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第21、議案第24号 令和2年度双葉町介護保険特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、予算説明書で款ごとに歳入から行います。3ページです。

第1款保険料。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款使用料及び手数料。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款国庫支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款支払基金交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款県支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第6款財産収入。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第7款寄附金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第8款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第9款繰越金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第10款諸収入。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款総務費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款保険給付費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 14ページになります。第3款財政安定化基金拠出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款地域支援事業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 17ページになります。第5款基金積立金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第6款諸支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款予備費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第24号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

休議します。

休憩 午前 9時38分

再開 午前 9時45分

○議長(佐々木清一君) 会議に戻します。

◎議案第25号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第22、議案第25号 令和2年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は、予算説明書で款ごとに歳入から行います。3ページです。

第1款後期高齢者医療保険料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款使用料及び手数料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款繰越金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款諸収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。

第1款総務費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款後期高齢者医療広域連合納付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款保健事業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款諸支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款予備費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第25号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

◎議案第26号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第23、議案第26号 双葉町副町長の選任についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 議案第26号 双葉町副町長の選任についてであります。金田勇氏が令和2年3月31日をもって任期満了となります。次期副町長候補者につきましては、福島県職員の派遣をお願いしておりましたが、このたびご推薦をいただきましたので、ご提案申し上げるものであります。

選任をお願いする徳永修宏氏は、平成12年4月に福島県庁に入庁され、相双建築事務所在地課に配属となり、その後農林総務領域総務予算グループ、総務省自治財政局財務調査課派遣、財務総室財政課、知事公室秘書課勤務などを経て、現在は生活環境総室で生活環境総務課主任主査として総務管理業務に当たられております。

徳永氏は、人格が高潔で、事業の運営管理、財務管理、そのほか行政運営に関し、優れた見識を有する方として推薦をいただいております。強固の意志、優れた洞察力など、本町の副町長としての資質は十分備えられており、町の復旧・復興に向けての課題を克服し、さらには町発展のため、町民の皆さんの期待に応えて活躍していただける人材と判断しております。

よって、徳永修宏氏を本町の副町長に選任することについて、議会の同意を賜りますようお願いするものであります。

○議長（佐々木清一君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第26号 双葉町副町長の選任についてを原案のとおり決することに賛成の方は

起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第26号は原案のとおり同意することに決定しました。

暫時休議します。

休憩 午前 9時50分

再開 午前 9時51分

○議長(佐々木清一君) 会議に戻します。

◎請願第1号の審査報告、質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第24、請願の審査報告を行います。

付託した請願について、所管の委員長から報告を願います。

請願第1号 福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出請願書について報告を願います。

産業厚生常任委員長、菅野博紀君。

(5番 菅野博紀君登壇)

○5番(菅野博紀君) おはようございます。産業厚生常任委員会の報告をいたします。

本定例会初日、当委員会に付託された福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書の請願について、3月10日委員会を開催し、審議を行いましたので、その報告をいたします。

請願趣旨にあるように、少子高齢化や人口流出など人手不足が深刻化し、非正規労働が雇用の4割となっています。また、消費税増税による経済への影響もあり、賃金の引上げによる消費の喚起など、「経済の好循環」が求められます。

一般労働者の賃金引上げ時期を踏まえ、最低賃金の改定諮問時期を可能な限り早め、早期発効に努めるべきとの委員の一致した意見でありました。

以上のことから、請願の願意は妥当と認められるため、皆様のお手元に配付されました請願審査報告書のとおり、委員会として採択すべきものとしたので、よろしくご審議お願いいたします。

○議長(佐々木清一君) ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより請願第1号を採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。請願第1号について委員長報告のとおり採択と決定することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、請願第1号は委員長報告のとおり採択することに決定しました。

◎発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第25、発議第1号 双葉町議会委員会条例の一部改正についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

菅野博紀君。

（5番 菅野博紀君登壇）

○5番（菅野博紀君） 発議第1号 双葉町議会委員会条例の一部改正について提案理由を申し上げます。

本案件につきましては、議案第6号 双葉町課設置条例の一部改正が行われることに伴う改正であります。改正点として、第2条第2号中の「産業課」を「農業振興課」に改めるものであります。

よろしくご審議お願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。発議第1号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、発議第1号は原案のとおり可決されました。

◎発議第2号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第26、発議第2号 福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書案を議題とします。

提出者より提案理由の説明を求めます。

提出者、菅野博紀君。

(5番 菅野博紀君登壇)

○5番(菅野博紀君) 提案理由の説明を申し上げます。

本日の本会議において請願が採択されましたので、発議第2号 福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書についての提案理由を申し上げます。

先ほども報告したとおり、人手不足の深刻化や非正規労働者が雇用の4割となっている。また、消費税増税の影響など、最低賃金の引上げは労働力の確保からも重要であり、一般勤労者の賃金引上げ時期を踏まえ、最低賃金改定諮問時期を可能な限り早め、早期発効に努めることを強く要望するものがあります。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出するものでありますが、意見書については、皆様に配付した案のとおりですので、朗読は省かせていただきます。

なお、意見書の提出先は、内閣総理大臣、厚生労働大臣、福島労働局長であります。

よろしくご審議お願いいたします。

○議長(佐々木清一君) 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより発議第2号について採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。発議第2号について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、発議第2号は原案のとおり可決されましたので、関係機関へ意見書を提出します。

◎常任委員会の閉会中の所管事務調査の件

○議長(佐々木清一君) 日程第27、常任委員会の閉会中の所管事務調査の件を議題とします。

各常任委員長から、会議規則第75条の規定によってお手元に配りました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。

◎議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件

○議長(佐々木清一君) 日程第28、議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件を議題とします。

議会運営委員長から、会議規則第75条の規定によってお手元に配りました閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

◎議員派遣の件

○議長(佐々木清一君) 日程第29、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。お手元に配付したとおり、議員を派遣することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 異議なしと認めます。

よって、議員を派遣することに決定しました。

◎閉会の宣告

○議長(佐々木清一君) 以上をもちまして、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

これで令和2年第1回双葉町議会定例会を閉会します。

ご苦労さまでした。

(午前10時01分)

地方自治法第123条の規定によりここに署名する。

議 長 佐々木 清 一

署名議員 尾 形 彰 宏

署名議員 石 田 翼